

2001年度

講義計画

桃山学院大学



Small, illegible text or stamp located in the upper left quadrant.

Small, illegible text or stamp located in the upper center.

Small, illegible text or stamp located in the upper right quadrant.

Small, illegible text or stamp located in the upper right quadrant, below the first stamp.

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|-------------------|----------------------|-------|
| 社会調査 | 1 1 1 2 1 3 | 通 期 通 期 通 期 | 4 単位 4 単位 4 単位 | 過 放 |
| [講義概要・学習目標] テレビや新聞のニュースを見ると、社会調査のデータがしばしば発表されている。しかもパソコンの普及に伴い、その使用率はますます高まっているのが現状である。これらのデータはいったいどのように作り出されているのか。あるいはその信頼性はどのくらいあるのかと考えたことがあるだろうか。 本講義ではこれらの素朴な疑問を解答し、社会調査の意義と基本的技法について解説していきたい。そしてグループ単位で簡単な作業実習を体験することにより、社会調査の基本を身につけてもらう予定である。 | [講義計画] <前期> 社会調査とは何か、社会調査と社会理論の関係など社会調査の意義と基本的な考え方を理解した上で、社会調査の基本ルール、問題意識と仮説、調査の企画と質問文の作成及び集計方法などについて勉強する。 <後期> 調査票の作成、データの収集、データの解析などについて勉強し、グループに分けて実習する。実習の成果は、冬休み前までにレポートとして提出してもらう。 | | | |
| [成績評価の方法] 出席、前期レポートと後期レポートなどを総合して評価する。詳細は最初の授業にて説明する。 | [参考文献] 随時提示する。 | | | |
| [教科書] 未定 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------------|--------------|---------|
| 社会調査 | 1 4 1 5 | 通 期 通 期 | 4 単位 4 単位 | 竹 中 英 紀 |
| [講義概要・学習目標] 新聞やテレビのニュースを見ると、「これこれの意見を持つ人が何パーセント」というふうに、しばしば社会調査の結果が報じられている。あのデータは、いったいどのようにして作り出されているのだろうか。なぜ、ごくわずかな人たちだけを対象にして、全体の傾向を推測することができるのだろうか。 社会学にとって社会調査は、データ収集の基本的な方法として位置づけられる。社会調査が正確で信頼に足るものであるためには、調査票の設計、標本抽出、調査の実施、データの集計、分析・解釈の各段階において、確立されている技法に厳密にしたがわなければならない。 この授業では、社会調査の意義と基本的な技法について解説し、あわせてグループ単位・個人単位でのかんたん作業実習を体験してもらう予定である。 | [講義計画] 原則としてテキストの内容に沿って授業を行なう。前期・後期それぞれのポイントは以下のとおりである。 (前期) ・社会調査の意義と基本的な考え方 ・問題意識と仮説（独立変数、従属変数） ・調査の企画と質問文の作成 (後期) ・サンプリングの理論と方法 ・データの整理とチェック ・単純集計とクロス集計、統計的検定 | | | |
| [成績評価の方法] 筆記試験、レポートなどの結果と出席状況を総合して評価する。 | [参考文献] ・大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 ・谷岡一郎『「社会調査」のウン』文春新書 ・佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社 ・東京大学教養学部統計学教室編『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会 | | | |
| [教科書] 森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|---------|
| 社会学原論 | | 通 期 | 4 単位 | 宮 本 孝 二 |
| 【講義概要・学習目標】 社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を、体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析や、社会学史に登場する多様な社会学理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。 しかしながら、社会学原論は社会学史と内容的に大きく重なる。しかし、社会学史のように時系列的に多様な社会学理論を紹介し発展の軌跡を描くのではなく、設定された一般理論的問題に現時点でどうかかわるかという視点からそれらを取り上げる。 また、社会を一般的に問うことは、社会を全体的に問うことに接続していかざるをえず、マクロな変動論を媒介として社会学原論と社会を全体的に把握することを旨とするという意味での現代社会学論が統一的に把握されることになるので、それについても解説する。 | 【講義計画】 1 社会学原論とは何か 2 相互行為の4つの側面①コミュニケーション 3 相互行為の4つの側面②サンクション 4 相互行為の4つの側面③エクステンジ 5 相互行為の4つの側面④コンフリクト 6 構造の内容規定と相互行為との関連づけ 7 構造という視点：構造機能主義と構造主義 8 変動論と現代社会学論 9 中心概念としてのパワー 10 社会学理論の展開：ギデンズの社会学理論 11 社会学理論の諸相：現代の社会学理論家たち 以上の内容を順次約25回で講義する。 | | | |
| 【成績評価の方法】 原則として後期試験（授業中に配布する講義内容要約資料から出題する空欄埋め問題と、テーマを自由に設定し講義内容と関連づけて論じる記述問題）によってのみ評価する。ただし、自由提出のレポート（講義内容に関して自分で調べて書くものなど）によって若干加点する。 | 【参考文献】 その都度指定する。 | | | |
| 【教科書】 宮本孝二『ギデンズの社会学理論』（1998年、八千代出版） 現代イギリスの、というよりは現代世界の代表的社会学者アンソニー・ギデンズの社会学理論の全体像をまとめ、社会学原論と現代社会学論の可能性を探究している。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| 社会学史 | | 通 期 | 4 単位 | 竹 内 真 澄 |
| 【講義概要・学習目標】 社会学史というのは、人が社会をどう見てきたかという歴史である。私たちは、それほど単純な素材でも、なんらかの社会イメージをもって生きている。たとえば、せちがら世の中は嫌だという人がいるかと思えば、ぎやくに競争こそ人を生かす道だと確信している人がいるものだ。これらの認識フレームの持ち主は、社会学者の本を読んだことは一度もないかもしれないが、いつのまにか各自が生活過程でものの見方を身につけてきたのである。だが、こうした社会についての世論の傾向やムードのような感覚的なものですら、実は取り巻きの人々から「伝染」したものかもしれないし、よくよく考え直してみると、その元にあたる意見を誰か、たとえば社会学者が言い、それをそうと知らずに受容した結果であるかもしれない。 講義では、各自が意識しないうちに身につけている認識のフレームの起源をつきとめ、それがどの程度の妥当性をもつものか検討してみたい。そして、この検討は、家族、学校、性、コミュニケーション、世界システムについての複数の認識フレームの間の競争にも広げられてよいだろう。 そのうえで、おおよそ近代という歴史的な時期が避けがたく直面するジレンマと矛盾を原理的に考えてみたい。それは、身近な領域の問題を貫いているものとも根深い領域の観察に裏付けられている。 | 【講義計画】 前期は、家族、性、学校、世界システム、コミュニケーションなどの場面で、どういう通説と新説がぶつかりあっているかを私たちの認識フレームの問題として考えてみたい。社会学者たちの対立は、要するに我々の生活のなかの対立の理論的表現である。とりわけ前期は20世紀後半史の文脈でこれらを検証してみよう。 そのうえで、後期には、これらの生活の場を根元から貫いて来る近代を18世紀（スミス）、19世紀（マルクス）、20世紀（ウェーバー）の発見の蓄積の中で見つけたい。21世紀における道の選択は、彼ら3人が差した社会学理論的な問いかけを今日的に再構成することはいまつく。前期の生活の場面での問題の構成が後期の原理的検討とつながれば、話は内裏し、社会学史の意味がわかるというよりも、社会学史をつうじて世界がわかるようになるはずである。 | | | |
| 【成績評価の方法】 年度末試験によって評価するが、授業の進行をみてレポートを課す場合は、両者を総合して評価する。 | 【参考文献】 内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書 T. パーソンズ『社会的行為の構造』（木鐸社） J. ハーバーマース『コミュニケーション的行為の理論 上中下』（未来社） | | | |
| 【教科書】 伊藤、大関、小林、鈴木、竹内著『人間再生の社会学理論』（創風社） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 現代社会論 | | 通期 | 4 単位 | 原田達 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>まず「モダン（近代・現代）」とは何かから始めたい。 「現代社会」とは、きわめて特殊な社会です。と同時に、きわめて巧妙で狡猾な社会です。このことを現代社会に張りめぐらされた「知と心情の構成」という視点から迫ろうと思います。 今きみたちが生活しているこの社会はどのような社会であるかを知ってもらいたいと思います。ただ、ぼくが解説できるのは、せいぜいこの社会の「社会学的特徴」だけです。ですから現代社会の政治的側面や経済的側面の解説を望んでも、それはないものねだりです。他の講義へどうぞ。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>まず、現代の消費文明の特徴について考えてみたい。そのための材料としては、デパートやパレード、ポスター、テーマパーク、ファッションなどを取り上げたい。 現代社会を分析するための理論的方法は、演劇的社会空間論をもちいる。そこで、劇場、演技、演出、俳優、背景、観客、スポットライト、大道具、小道具、メイクアップ、黒子などの演劇用語を主要な分析視角として使用する。さらに現代社会の精神分析学にいたることができれば、と思う。</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>試験をおこなう。思い出したようにレポートを課すかもしれない。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>その都度指示します。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>原田達『知と権力の社会学』（世界思想社）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 社会心理学 | | 通期 | 4 単位 | 小牧一裕 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会心理学は、その社会における人々の日常生活の心理状態、また、他人との関係（対人行動）及びその社会において人々が行う行動（社会的行動）の原因やそのメカニズムについて解明し、説明するための学問である。この講義を通して、現在の自分の心理状態や自分の行う行動について自分自身で再考することを目指す。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>前期は、社会的な現象から影響を受けてパーソナリティが形成されてくるプロセス（日本の文化・家庭・学校・地域社会などからの影響：社会化）について、後期は、対人関係・対人行動（態度・対人魅力など）、集団の心理、大衆社会現象などについて説明していく。</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>積極的な授業への参加、レポート提出、試験などで総合的に評価する。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて指示する。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>杉野・安藤他「人間関係を学ぶ心理学」福村出版 1999</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|-----|--|------|-------|
| 家 族 社 会 学 | | 通 期 | 4 単位 | 菰 渕 緑 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>家族はこれまで社会の基礎単位として位置づけられてきたが、現代社会ではその家族の存在が改めて問われている。本稿では家族の変遷を歴史的な流れの中で把握し、社会と家族との関連を考える。また家族の非典型的形態を見ることによって、逆に家族の存在理由を問い直す。さらに急激な変化を経験した家族の姿を通して、家族の多様性という視点から現代家族が抱える諸問題を分析していく。</p> <p>なお、家族をよりよく理解するために、背景としての社会についての考察を適宜取り入れていく。</p> | | <p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の本質—家族とは何か 2. 非典型的家族の存在に見る家族のあり方 3. 家族と文化 4. 家族の構造と機能 5. 家族の変遷 6. 家族における社会化とパーソナリティ 7. 家族の内部構造—勢力構造と役割構造 8. 諸外国における家族の実態 9. 家族の将来像—家族政策および家族福祉の視点から | | |
| <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>筆記試験によって評価する</p> | | <p>〔参考文献〕</p> <p>清水 由文・蔦渕 緑 編 『変容する世界の家族』 1999年 ナカニシヤ出版</p> | | |
| <p>〔教科書〕</p> <p>未 定</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|-----|---|------|---------|
| 村 落 社 会 学 | | 通 期 | 4 単位 | 清 水 由 文 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>第2次大戦後日本の食料自給率は経済成長とは逆行して漸次低下し続け現在では30%台である。そのような食料問題は現代日本における重要課題の1つである。その問題は日本の農業の変化と食の多様化、欧風化への変化という2つの側面から明らかにされる必要がある。そこで前半では日本の農業・農村がどのように変化したのかを食の変化と関係づけて検討し、さらに農業を環境の視点からも明らかにしたい。また後半では日本の農民あるいは農家はどのように生活してきたのかという視点から検討してみたい。</p> | | <p>〔講義計画〕</p> <p>〔前期〕 1. 戦前の日本農村の特質 2. 農地改革の特質と意義 3. 戦後日本農村の変化 4. 新食糧法の特徴と問題 4. 食の高度成長 5. 食の多様化 6. 環境からみた農と食 7. グリーン・ツーリズム</p> <p>〔後期〕 1. 伝統的家族としての「家」 2. 日本農村における家族の現状 3. 日本農村の親族組織 4. 日本農村の村落の特徴と現状 5. 日本の村落の地域性 6. 日本の村落の組織と運営</p> <p>なお以上のようなテーマに対して適宜ビデオを用いることにより視覚的に理解できるようにしていきたい。</p> | | |
| <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>年度末の試験と年間2回のレポート、講義中の小レポートの総合評価による。</p> | | <p>〔参考文献〕</p> <p>随時紹介する</p> | | |
| <p>〔教科書〕</p> <p>使用しない</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| 都市社会学 | | 通 期 | 4 単位 | 大 谷 信 介 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>都市社会学の困難さは、それが対象とする<都市>を定義すること自体が難しいことに起因している。しかし、人間は日常生活のなかで、なんとなくではあるが<都市的なるもの>（たとえば「都会」-「田舎」という言葉に包含される意味内容に象徴されるもの）の存在を実感していることも確かな事実である。「この各個人が<都市的>と実感している特徴や特性=<都市的なるもの>本質は、いったい何なのだろうか？」この講義では、これまでの都市社会学が追及してきた中心的テーマである上記の疑問を、都市住民のパーソナル・ネットワークの実証分析を通して実際に解明していくことを目標としている。また講義の中では、世界の都市社会学の研究動向、日本都市社会学研究の問題点等を整理するとともに、最近注目を集めているネットワーク研究の動向についても整理検討していく予定である。</p> | <p>[講義計画]</p> <p><前期></p> <p>1 Introduction(この講義の目的・内容について) 2 都市の定義に関する諸説 3 結節機関説 4 自然都市と行政都市都市 5 ウェーバーの都市理論 6 比較都市類型論(西洋都市と東洋都市) 7 シカゴ学派と新都市社会学 7 シカゴでなぜ都市社会学が発展したか? 8 人間生態学の議論(パーク) 9 アーバニズム論(ワース) 10 アーバニズム論に対する批判 11 フィッシャーによるアーバニズム論の理論的修正 12 下位文化理論の理論的背景・立論構造 13 まとめ</p> <p><後期></p> <p>1 コミュニティとネットワーク 2戦後地域開発と住民運動・コミュニティ形成論 3 町内会とボランティア・アソシエーション 4 都市住民の行動実態や状況に対応した地域政策 5 ネットワークとしてのコミュニティ・コミュニティ解放論 6 先駆的ネットワーク調査:北米と日本のパーソナルネットワーク 7 都市化とパーソナル・ネットワーク 8 都市的ネットワーク:多重送信型・親密な第2次的関係 9 大都市大学生と地方都市大学生の友人ネットワークの比較 10 人間関係の激変:携帯電話の普及と友人関係 11 居住類型別ネットワーク特性 12 一戸建て居住者とマンション居住者の人間関係 13 都市社会学におけるパーソナル・ネットワーク研究</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験および平常の提出物等を総合評価する</p> | <p>[参考文献]</p> <p>鈴木広編『都市化とコミュニティの社会学』ミネルヴァ書房 2001年(刊行予定) 奥田道大編『講座社会学4 都市』東大出版会 1999年 M.カフル『都市・情報・グローバル社会』青木書店 1999年 吉見俊哉編『都市と都市化の社会学』岩波書店 1998年 C.S.フィッシャー『都市的体験』未来社 1997年 松本康編『21世紀の都市社会学 1巻 増殖するネットワーク』勁草書房 1995年 鈴木広編『現代都市を解読する』ミネルヴァ書房 1992年 奥田道大編訳『都市の理論のために』多賀出版 1983年 鈴木広編『都市化の社会学』誠信書房 1965年</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>大谷信介『現代都市住民のパーソナル・ネットワーク』ミネルヴァ書房 1995年</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| 文化社会学 | | 通 期 | 4 単位 | 北 川 紀 男 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>文化は人間にとって第二の本能であるといわれるほど、人間と文化は不可分な関係にある。それ故に、人間の社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない研究課題である。最初に、文化社会学の学説史を概観し、次いで人間と文化との間に存在する根源的な関係に立ち戻って、文化の概念を尋ね、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的現象であることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処変われば、品変わる」とは、文化と社会の関係を巧くいいて、社会学的にみて興味ある表現である。</p> <p>以上の基礎的な考察を踏まえて、後期は、複雑多岐に分化し、目まぐるしく変転する現代文化の動向を解明するために、「大衆化」、「国際化」、「情報化」、「共生化」の視点にたつて、批判的に考察をすすめてみたい。</p> <p>現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、人びとはともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。</p> | <p>[講義計画]</p> <p><前 期></p> <p>①イントロダクション ～社会学の認識について～ ②社会学における文化の研究 ～歴史と方法論～ ③文化の概念 ～シンボル・意味・価値～ ④文化と社会規範 ～規範・社会化・タブー～ ⑤生活文化 ～生活様式としての文化～ ⑥文化と文明 ～文明社会の諸問題～</p> <p><後 期></p> <p>①知識の社会学 ～知識・イデオロギー・科学～ ②大衆化と文化 ～大衆文化・被操作性～ ③国際化と文化 ～民族文化・国民文化・異文化間コミュニケーション～ ④情報化と文化 ～情報化社会・ニューメディア～ ⑤共生化と文化 ～高齢者・障害者・ジェンダー～ ⑥文化変動と社会変動</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>成績評価は、主に、夏期休暇中の課題として課すレポートと学年末試験に基づいておこなうが、月に一度おこなう出席状況調査の結果も加味する。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>参考文献については、5月の連休明けの講義で「文化社会学参考文献リスト」として配布するので必ず受け取ること。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>北川 紀男『文化社会学研究』1999年(八千代出版)</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|--|------|---------|
| 宗教社会学 | | 通 期 | 4 単位 | 清 水 夏 樹 |
| [講義概要・学習目標] 宗教史、宗教学上の基礎知識をふまえ Ⅰ 呪術と儀礼、祭祀の構造 Ⅱ 日本の伝統信仰とその習合的性格 Ⅲ 日本近代化の舞台裏—新宗教々団の形成、同じくその組織化の内状と諸特徴 Ⅳ 宗教の世俗化と再聖（活性）化、 宗教のdemonization—魔力化と逆形融化 Ⅴ 経済的發展と宗教倫理との逆説的な関係 等を扱う。諸宗教を生み出す現実と理念のはざまから現代社会の問題領域を明らかにしたい。 注＝「社会学」教養、基礎用語、基本概念が理解し得ている 二年産生以上の受講が望ましい。 | | [講義計画] 以上の各項目は概説上のきり口であって講義をすすめる整序だったものではない。前・後期にわたって おい前後することを断っておく。 前期はとくにマックス・ウェーバー、E・デュルケイムをはじめとする宗教社会学上の業績に触れ、 日本の固有信仰の特性とその歴史的基盤を顧みることを主眼とする。 後期は近代社会を用意し得た経済的価値観や合理性が宗教信仰とどう結びつくのか、その潜在的な結 等を抜いながら、あわせてわが国の（新・旧）両宗教の複合的な性格と構造を探ってみたい。 必要に応じプリント、資料の類を配付、それをもとに簡易テストを試みたりレポートを課したりする 席日数が多いと単位取得に支障をきたす点に注意喚起のこと。 | | |
| [成績評価の方法] 年度末試験 随時簡易レポートを課したり、同じ簡易テストを試み、これを参照する | | [参考文献] 授業中に指示する | | |
| [教科書] | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|--|------|---------|
| 教育社会学 | | 通 期 | 4 単位 | 宮 崎 和 夫 |
| [講義概要・学習目標] 教育社会学は、教育と社会の関係を社会学の方法で研究する科学である。 教育の問題は、今や学校のみならず家庭や地域社会など広範囲で大きな社会問 題になっていることが多い。 本講義では、現代社会の特質からくる教育の諸問題を積極的に取り扱う。 たとえば、神戸の少年殺人事件や東京の2歳児の殺人事件にまでなった「お受 験」事件をはじめ学歴社会問題、受験競争問題、家庭や地域社会の教育力の低 下問題等と非行や逸脱行為、少年犯罪との関連、いじめや不登校問題、若者文 化と流行、マンガ文化やTV文化の教育への影響問題などいろいろな教育問題 と学校組織の構造的な問題点との関連を具体的かつ多面的に考察する。 その中で、教育と現代社会の特質との関連を分析する社会学的視点を論究す るとともに、現代教育が抱えている諸問題を実証科学的に分析し考察する。 | | [講義計画] 〈前期〉 1. 現代社会の特質と教育 2. 情報化社会と教育 3. 国際化社会と教育 4. 少子高齢社会と教育 5. 学歴社会と教育 6. 現代社会と学校病理 7. 生涯学習社会時代の到来 〈後期〉 8. 学力保障と教育機会 9. ジェンダー・ハビトゥスとの再生産とジェンダー資本 10. 社会階層と教育 11. 組織としての学校と教職という仕事 12. 学校問題としてのいじめ現象 13. 社会変動と教育改革 | | |
| [成績評価の方法] 学年末試験の成績と年間数回提出してもらったミニレポートなどを総合して評 価する。 | | [参考文献] 1. 宮崎和夫（編著）「生徒指導の理論と実践」（学文社） 2. 宮崎和夫（編著）「新現代教育原理」（学文社） 3. 宮崎和夫（編著）「教職論」（ミネルヴァ書房） | | |
| [教科書] 宮崎和夫（編著）「現代社会と教育の視点」（ミネルヴァ書房） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------|
| 社 会 病 理 学 | | 通 期 | 4 単位 | 菰 渕 緑 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会病理学は、社会に生じている解決困難な諸問題を分析するための学問の一つである。社会的な諸問題が生じてくる原因、過程、結果などを理論的に究明し、解決へ向けての方向性を探ることを目的としている。本講では社会病理学の発達過程をその社会的背景の解明とともに論じ、さらに代表的な社会病理学理論を新しい視点から見直す。そして改めて社会病理とは何か、病理判定の基準とは、という基本的な問題を検討していく。</p> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会病理学とは何か 2. 社会病理学の分野 3. 社会病理学研究の系譜 ヨーロッパにおける社会病理学研究 アメリカにおける社会病理学研究 日本における社会病理学研究 4. 社会病理学の諸理論 社会不適応論、疎外論、文化遅滞論、社会解体論、アノミー論 逸脱行動論、ラベリング論など 5. 社会病理の判定基準 | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>筆記試験によって評価する</p> | <p>[参考文献]</p> <p>その都度、紹介する</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 産 業 社 会 学 | | 通 期 | 4 単位 | 上 田 修 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>いわゆるバブル経済の崩壊とともに、金融業を中心として日本企業に対する評価が著しく低下した。金融不安はいまでもなく、リストラ、企業倒産による失業者の増大、さらに能力主義の深化・徹底化は、かつて日本のと称された制度、特徴に対する信頼を揺るがせ、評価の大幅な低下にも結びついている。しかし、戦後の時期に限っても、日本企業における雇用・人事管理をはじめとする様々な特徴・特質に対する評価は、時期によって大きく変わってきた。この点を念頭におき、この授業では、日本企業が採用する雇用・人事・労務管理制度の特徴をアメリカ、ヨーロッパの企業と比較しながら検討するとともに、いかにこれらが変化してきたのかを明らかにする。同時に、これらの日本の特質とされる事柄が働く人々の生活や社会関係にどのような問題を投げかけているのかを考察する。</p> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> I 総論 <ol style="list-style-type: none"> 1 日本企業をめぐる評価とその変遷 2 日本的特質と実態 II 制度と政策の歴史的展開 <ol style="list-style-type: none"> 1 労務管理：年功制から能力主義へ 2 人事管理：伝統的管理と能力主義 3 雇用管理：終身雇用の動揺と多様化する雇用 4 賃金：平等と格差 5 労使関係と労働組合：企業別組合と協調的労使関係 III 変わる労働世界 <ol style="list-style-type: none"> 1 労働市場の変容と労働政策の転換 2 女性労働の増大：均等法と女性の労働世界 3 ホワトカラーの労働と管理 4 企業社会：存続それとも動揺？ | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末試験ならびに学年末試験の成績で評価する。配点は前期末50点、学年末50点の計100点。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>各パートに入るとき文献リストを配布する。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>使用しない。ただし、各パートに入るとき、講義内容の概略(レジュメ)を配布する。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 産業心理学 | | 通 期 | 4 単位 | 西川 一廉 |
| [講義概要・学習目標] いま産業社会は大きく変わりつつある。そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず、勤労者の生活は職場（会社）を中心に営まれる。そこで起こるさまざまな出来事は、働く人々とその家族に大きく影響する。 ソフト化・サービス化、情報化、コンピュータ化、共働き化、高齢化する社会の中での仕事、職場の人間関係、技術革新と能力開発、人事制度と処遇、雇用環境と中高年問題、職場のストレスとメンタルヘルス等々、職場生活は多様な問題を内包している。人はこうした会社組織の中でどのように生きようとしているのか。さらに女性の労働力化が進む中で、仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。高齢化が進む中で、職場環境はどのように改善されなければならないのか。 当講義では、このようにダイナミックに変化する労働環境下での働く人々について、心理学の立場から考える。 | [講義計画] I. 前期 勤労者の生きがい、働く意欲、職場のメンタルヘルス、仕事と家族など、主として勤労意識とその変化について考える。 II. 後期 コンピュータ化、情報化、産業安全と事故防止、人事管理と能力開発、職場の人間関係、リーダーシップなど、主として労働環境と働く人々との相互作用について考える。 | | | |
| [成績評価の方法] 成績の評価は後期末試験による。 | [参考文献] N I P 研究会（編） 1995 『現代ライフ・スタイルの分析』 信山社 | | | |
| [教科書] N I P 研究会（編） 2000 『仕事とライフスタイルの心理学』 福村出版 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 社会政策総論 | | 通 期 | 4 単位 | 小 川 登 |
| [講義概要・学習目標] 社会政策の基本と戦後日本の社会政策について学ぶ。 1、現代社会政策の展開と分析視角 2、資本主義の生成期・産業資本主義段階と社会政策 3、独占資本主義段階と社会政策の発展 4、労働組合政策と労使関係 5、賃金政策と所得分配 6、労働市場政策（とくに雇用調整について） 7、社会保障政策の展開 8、労働者保護政策 9、高齢化社会と労働・社会問題 10、技術革新と労働問題 11、女性労働の問題点 12、ホワイトカラー労働と社会政策 13、現代日本の社会政策の展開と背景 | [講義計画] （前期）教科書の1～7について （後期）教科書の8～13について | | | |
| [成績評価の方法] 学年末試験。 | [参考文献] 授業の中で指示する。 | | | |
| [教科書] 石畑良太郎・佐野 稔（編）「現代の社会政策（第3版）」（有斐閣） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|-----|---|------|-------|
| 社会調査実習 | | 通 期 | 4 単位 | 木下 栄二 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>この科目は、社会学部必修科目である「社会調査」の単位取得者を対象に、少人数（最大30人程度）・ゼミ形式によって、社会調査についての深い知識と技術を修得することを目的として開講される。授業では、社会調査計画の立案・調査票の作成・調査の実施、コンピューターを使った調査データの解析・報告書の作成という一連の流れを実際に経験してもらう。授業時間以外にもきわめて多くの学習・作業の時間を必要とするハードな科目であり、積極的な参加意欲と参加の能力を持つものだけを受け入れる。欠席・遅刻が厳禁であることは言うまでもないが、授業についてこれない者も、年度途中で容赦なく切り捨てる。</p> <p>なお、この科目を履修しようとする者は、同時に「社会学特講（社会調査方法論・データ解析演習）」も履修すること。</p> | | <p>〔講義計画〕</p> <p>年間の授業計画は以下のように予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査計画の立案（4, 5月）：調査テーマを決めるとともに、調査対象・テーマに関する知識をもち、理解を深めるために、文献リサーチ、ヒアリング等を行う。 2. 調査票の作成（6, 7月）調査実施のための、質問項目、質問文、仮説の作成を行う。なお、この時期にワープロおよびコンピューターに関する集計解析の技法についての学習も並行して行われる。 3. 調査の実施（7～10月）：調査対象者の確定（サンプリング等も含む）、作成した調査票を用いた調査の実施。（夏期休暇中も合宿・補習等がある） 4. コンピューターを使った調査データの解析（10～12月）：得られたデータをコンピューターを使って解析する。SPSSという統計解析ソフトへの習熟が要求される。 5. 調査報告書の作成（12～1月）：各自分担を決めて、1冊の報告書を作成する。調査報告の書き方、グラフ、図表の作り方について実践的な指導が行われる。 | | |
| <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>授業に最後まで参加し、報告書の執筆を担当した者だけが単位認定の対象となる。欠席・遅刻の多い者、授業態度の悪い者、授業についてこれない者は、年度途中で除名して、授業への参加を禁止する。</p> | | <p>〔参考文献〕</p> <p>原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書</p> <p>なお、1994年度以降、毎年刊行している『社会調査実習報告書』も目を通しておくことが望ましい。『社会調査実習報告書』は社会調査実習室に常備してある。</p> | | |
| <p>〔教科書〕</p> <p>大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社</p> | | <p>その他適宜指定する。</p> | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|---|------|-------|
| 社会学特講 (データ解析演習) | | 後 期 | 2 単位 | 木下 栄二 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>この科目は、「社会調査実習」と並行して、「社会調査」の単位履修者を対象に、コンピューターを使ったデータ解析法の修得を目標に開講する。SPSSという統計解析ソフトに習熟することを中心に、調査データをコンピューターにて解析する手法について学ぶ。</p> <p>到達目標としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コンピューター上でのデータの定義、プログラムの作成等 ②コンピューター上でのデータの修正・加工の方法について ③2変量の解析法と出力結果の読みとり方 ④多重回答データの解析法と出力結果の読みとり方 ⑤エラーレーション、偏相関の方法 ⑥多変量解析法（因子分析法と重回帰法） <p>以上の6つの段階を設定する。このうち、⑤の段階以上に到達した者のみを単位認定の対象とする。毎回、コンピューターを使った作業が中心の授業である。遅刻・欠席は厳禁である。</p> <p>なお、「社会調査実習」履修者は必ず履修すること。</p> | | <p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ①コンピューター上でのデータの定義、プログラムの作成等（2回） ②コンピューター上でのデータの修正・加工の方法について（1回） ③2変量の解析法と出力結果の読みとり方（2回） ④多重回答データの解析法と出力結果の読みとり方（1回） ⑤エラーレーション、偏相関の方法（2回） ⑥多変量解析法（因子分析法と重回帰法）（3回） | | |
| <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>各段階ごとの小テスト=90% 出席 =10%</p> | | <p>〔参考文献〕</p> <p>* 本学計算機センター発行のユーザーズガイドを事前に熟読しておくこと。</p> <p>山本嘉一郎・吉村英・竹村和久『パソコンSPSS（基礎編）』東洋経済新報社 安田三郎・海野道郎『社会統計学』丸善 駒澤勉・橋口捷久『パソコン数量化分析』朝倉書店</p> <p>その他適宜指定する。</p> | | |
| <p>〔教科書〕</p> <p>特に指定せず。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 社会学特講 (社会調査方法論) | | 前 期 | 2 単位 | 木下 栄二 |
| 〔講義概要・学習目標〕 この科目は、「社会調査実習」と並行して、「社会調査」の単位履修者を対象に、社会調査の方法について総合的な理解をもつことを目標に開講する。授業においては、①概念と仮説、②測定の信頼性と妥当性、③サンプリング理論とその技法、④2変数関連に関する統計的技法、⑤エラボレーションと偏相関、⑥多変量解析の諸技法、の6点の習得を目標とする。 ほぼ毎週、課題を与えて理解の促進をはかるほか、小テストも数回行う予定である。遅刻・欠席は厳禁、課題未提出者も中途でも切り捨てる。かなりハードな講義となるので覚悟して履修するように。 なお、「社会調査実習」履修者は必ず履修すること。 | 〔講義計画〕 ①概念と仮説（1回） ②測定の信頼性と妥当性（1回） ③サンプリング理論とその技法（2回） ④2変数関連に関する統計的技法（2回） ⑤エラボレーションと偏相関（2回） ⑥多変量解析の諸技法（3回） | | | |
| 〔成績評価の方法〕 小テスト＝50％ 課題提出＝40％ 出席＝10％ | 〔参考文献〕 原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会 安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック』有斐閣双書 P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館 青井和夫・直井優『社会調査の基礎』サイエンス社 | | | |
| 〔教科書〕 森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社 大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 | その他適宜指定する。 | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|---------|
| マス・コミュニケーション論Ⅰ | | 通 期 | 4 単位 | 中 村 秀 之 |
| 〔講義概要・学習目標〕 映像を中心とするマス・コミュニケーション論の入門コースである。 19世紀前半における2つの新技術——写真と動画それぞれの発明に始まり、印刷媒体における写真利用、映画、テレビ、そしてデジタル映像へと至る映像メディア／映像文化の歴史的發展をたどり、そこにマス・コミュニケーション／マス・メディアの基本的な諸問題の解説を絡ませながら現代の文化と社会を立体的に把握すること、これが本講義の目的である。 | 〔講義計画〕 以下のような内容・順序で講義を行う予定。 マス・コミュニケーション／マス・メディア研究とは何か？ 映像とは何か？：映像は本当に「メディア」といえるのか？ 19世紀における現代視覚文化の誕生：写真と動画 「複製技術時代」の幕開け：印刷媒体における写真利用 「映画」の誕生と発展：見世物／芸術／情報メディア…？ 総力戦体制と映像の「メディア」化：戦争は映像を（どのように）変えたか？ 「テレビ」、この知られざるもの デジタル映像の諸問題、など…… | | | |
| 〔成績評価の方法〕 レポート・試験などを総合的に判断して評価する。 *遅刻・途中退出、私語、携帯電話の着信音を鳴らすなどの不適切な行為は、当然、マイナス評価の対象となる。 | 〔参考文献〕 授業中にそのつど指示する。 | | | |
| 〔教科書〕 プリントを配布する。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|---------|
| マス・コミュニケーション論Ⅱ | | 通 期 | 4 単位 | 津金澤 聡 廣 |
| [講義概要・学習目標] <p>我々は、日々、新聞・雑誌を読み、テレビ・ラジオを視聴したり、他の様々なメディア文化に接触して暮らしている。そして、これらの情報攝取をとおして「リカバ」その時代の「常識」や社会風俗を吸収してきている。しかし、マス・コミュニケーションとは何なのか、マス・メディアは私たちの生活にとってどのような役割を果しているのか、と改めて考え直してみたい。あるいは、マス・コミュニケーションと媒介するマス・メディアのあり方はこれでいいのか、何が問題なのかと、共に考え、検討したいと思う。</p> | [講義計画] 次の各領域について視点を絞る。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 洗-ナリズム、マス・メディア、マス・コミュニケーションの定義 2. テレビ批判の系譜 3. マス・メディアをめぐり法的諸問題 4. 新聞倫理綱領と新聞編集に關する法規 5. 放送法の諸問題 6. マス・メディアをめぐり社会心理の問題化 7. 「高度情報化」現象の進展とマス・メディア 8. 現代社会におけるマス・メディアと日常の生活文化 9. 「インターネット・エイ」時代が意味するもの | | | |
| [成績評価の方法] <p>平常点（レポート等）と学期末試験による総合評価。</p> | [参考文献] <p>その都度指示する。（文献多数）</p> | | | |
| [教科書] <p>津金澤 聡廣・田宮武『テレビ放送への提言』 丸の内書房、1999年。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 | | | | | |
|--|--|------------|---------|-------|---------|-----|------------|-----|--|
| 国際関係論 | | 通 期 | 4 単位 | 松村昌廣 | | | | | |
| [講義概要・学習目標] <p>国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊後のダイナミズムを理論的に把握する。</p> | [講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1 導入 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際関係論と国際関係における日本 2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解 3) 社会科学における認識・方法論的論争と国際関係論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 現実主義 VS 理想主義 (2) 伝統主義 VS 科学主義 (3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義 (4) 講師の見解 2 総論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的捉え方 <ol style="list-style-type: none"> (1) 現実主義 (2) 多元主義 (3) グローバリズム (4) 講師の見解 2) 分析のレベル <ol style="list-style-type: none"> (1) 政策決定システム (2) 国家システム (3) 国際システム (4) 講師の見解 3 各論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 軍事的側面 <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全保障 (2) 紛争 (3) 講師の見解 2) 経済的側面（貿易・金融・投資・技術・開発） <ol style="list-style-type: none"> (1) 市場機能中心主義 (2) 国家機能中心主義 (3) 資本形成中心主義 (4) 講師の見解 3) 秩序づけのための組織化側面 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国際法 (2) 国際機構 (3) 国際レジーム 4 結論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 冷戦後の国際構造 2) 日本の国際行動とその将来 | | | | | | | | |
| [成績評価の方法] <table border="0"> <tr> <td>1) 出席・受講状態</td> <td>50%</td> <td>2) 前期試験</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>3) 後期試験</td> <td>30%</td> <td>4) 冬休みレポート</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>(希望者のみ)</p> <p>*冬休みレポート 参考文献3冊を読み、各著者の(1)国際政治観(2)国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、それぞれについて要約しなさい。</p> <p>**評価の目安 80~100%・・・A 70~79%・・・B 60~69%・・・C</p> | 1) 出席・受講状態 | 50% | 2) 前期試験 | 20% | 3) 後期試験 | 30% | 4) 冬休みレポート | 20% | |
| 1) 出席・受講状態 | 50% | 2) 前期試験 | 20% | | | | | | |
| 3) 後期試験 | 30% | 4) 冬休みレポート | 20% | | | | | | |
| [教科書] P.ピオティ&M.カピ『国際関係論』(彩流社) ロバート・ギルピン『世界システムの政治経済学』(東洋経済新報社) | [参考文献] E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫) モーゲンソー『国際政治』(福村出版) シューマン『国際政治』(東大出版会) | | | | | | | | |
| 注意 試験には必要なので確保しておくように。 | | | | | | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|-----|-------|
| 国際機構論 | | 後期集中 | 4単位 | 軽部恵子 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>このクラスでは、前半に国際機構の成り立ちと仕組みについて、国際連盟と国際連合を中心に勉強していきます。後半は「国連と武力紛争」をテーマに掘り下げます。冷戦中、国連安全保障理事会は五大国、とくに米ソの対立により、国際の平和と安全を維持するという任務を十分果たせませんでした。冷戦終結後は民族紛争が再燃し、その解決は非常に困難です。私たちはどうしたら武力紛争を減らし、予防することができるのでしょうか。</p> <p>国連について勉強したい人、国際問題に強くなりたい人等、意欲的な学生を待っています。なお、国際法と並行して勉強するとより効果的です(両者の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、全く別の科目です)。また、国際機構に関係ある重大ニュースや事件は、集中テーマ以外でも随時取り上げます。</p> | <p>[講義計画]</p> <p><前半> 国際機構の基礎を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際機構とは何か 2. 国際機構の歴史：ウィーン会議、ハーグ平和会議、国際行政連合、非政府組織の誕生(赤十字国際委員会) 3. 第1次世界大戦と国際連盟の設立 4. 第2次世界大戦と国際連合の設立 5. 国連の仕組み：国連憲章、主要機関、専門機関、NGO 6. 国際の平和と安全の維持：紛争の平和的解決、安保理と拒否権、幻の「国連軍」、国連平和維持活動、予防外交 <p><後半> 「国連と武力紛争」</p> <p>冷戦の幕開け、朝鮮戦争、ベルリンの壁崩壊、湾岸危機と湾岸戦争、軍縮(核兵器、生物・化学兵器、対人地雷)、チャイルド・ソルジャー、武力紛争下の女性、難民などを取り上げる予定です。</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験(2002年1月) (講義で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問を書くためで、「出席点」にはなりません)</p> | <p>[参考文献] ** 国際法のページも見てください **</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉田康彦『図解 国連のしくみ』日本実業出版社 1995年 ・国連広報局編『創立50周年記念 国連年鑑特別号：国連半世紀の軌跡』中央大学出版部 1997年 ・横田洋三編『国連による平和と安全の維持：解説と資料』国際書院 2000年 ・高井晋『国連PKOと平和協力法』真正書籍 1995年 ・黒沢満編著『軍縮問題入門』第2版 東信堂 1999年 ・国正武重『湾岸戦争という転回点』岩波書店 1999年 ・松井芳郎『湾岸戦争と国際連合』日本評論社 1993年 <p>※ その他の文献は授業中に指示する。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <ul style="list-style-type: none"> * 国連広報局編『国際連合の基礎知識』(増補改訂第5版、世界の動き社、1999年) <生協にて一括購入します> * 授業で配布する資料 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|-----|-------|
| 国際政治史 | | 通 期 | 4単位 | 鈴木博信 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>主題は「冷戦史：1945～1991」です。</p> <p>―共通の敵ナチ・ドイツがたまたま、米ソ両超大国に宣戦布告したことで、半世紀近く経ち、一方の連合軍は壊滅したという、フィクション・ニュー・ウオリアの「単独リーダー」がたまたま「COLD WAR」時代をおさめたにすぎず、「われわれは今の時代を生きているのか？」と同様の問いかけをした。</p> <p>そのため、上の主題を包括的・組織的により取り扱った研究会、研究会の主要な事件のいくつかを焦点とする。これは、事件のあつた当事者の証言や回想をとりだして紹介する形式で、話をする予定です。</p> | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヌーロッパにおける冷戦の起源：1945～49 2. 共産中国とアジアにおける冷戦：1945～53 3. 「平和共存」と核対決：1953～64 4. アメリカとベトナム：1945～75 5. 米ソ両超大国と共産中国：1949～80 6. 70年代米ソ両超大国の「緊張緩和」の進行と停滞 7. レーガン、ゴルバチョフ、そして冷戦の終わり：1981～91 8. 回顧と展望 | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 年度末試験(レポート形式あり) ② 必要に応じて課外学習のレポート、総合的に判定する。 | <p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高坂正堯「現代の国際政治」講談社学術文庫 1989 ○田中浩「戦後世界政治史」講談社学術文庫 1991 ○仲見「ソ連・アメリカの戦間期―ソ連の外交政策」岩波書店 1992 ○森本良男「冷戦一人と事件」サイマル出版会 1995 ○ワロラ・ルイス、友田錦記「ヨーロッパ」上2巻 河出書房新社 1990 ○アダム・ワナム、鈴木博信訳「緊張と共存―ソ連の外交史」全2巻 サイマル出版会 1974 | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>随時、プリント教材(年表、地図、おもしろ文庫・資料の紹介など)を配ります。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|-----|--|------|---------|
| 国 際 法 | | 後期集中 | 4 単位 | 軽 部 恵 子 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>このクラスでは、前半に国際法の基礎を習得します。国際法の原則がわかると、新聞やTVの国際ニュースがわかるようになります。それは、国際法が国家の行動を規律する、世界共通のルールだからです。</p> <p>後半は「武力紛争と国際法」をテーマに掘り下げます。人類の歴史は戦争の歴史でもあり、近代国際法も戦争のルールとして誕生・発展してきました。冷戦終結後も世界各地で武力紛争が続いているのはなぜでしょうか。</p> <p>国際問題に強くなりたいという人は、ぜひこのクラスを履修して下さい。なお、国際機構論と並行して勉強するとより効果的です（両者の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、全く別の科目です）。国際法に関連する重大ニュースや事件は、集中テーマ以外でも随時取り上げます。</p> | | <p>[講義計画]</p> <p><前半> 国際法の基礎を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際法とは何か：国家の意義、条約と慣習法 他 2. 国際法の歴史：ウェストファリア条約、グロチウス『戦争と平和の法』、ハーグ平和会議、2つの世界大戦 他 3. 国際法の主要原則：「合意は拘束する」 他 4. 国際法の主体：国家、国際機構、人民 5. 国家：国家成立の要件、国家の基本的な権利と義務 6. 国家領域：領域の得喪、海の国際法、空の国際法 7. 条約：条約の作成から終了まで、条約の無効、留保 <p><後半> 「武力紛争と国際法」</p> <p>朝鮮戦争、キューバ・ミサイル危機、湾岸危機と湾岸戦争、日米安保条約と新ガイドラインを取り上げる予定です。</p> | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験（2002年1月） （講義で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問を書くため、「出席点」にはなりません）</p> | | <p>[参考文献] ** 国際機構論のページも見て下さい **</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際法学会編著『国際関係法辞典』三省堂 1995年 ・横田洋三編『国際法入門』有斐閣 1997年 ・大沼保昭編『資料で読み解く国際法』東信堂 1996年 ・奥脇直也 他著『国際法キーワード』有斐閣 1997年 ・城戸正彦『戦争と国際法』改訂版 嵯峨書院 1996年 ・『世界の戦争・革命・反乱 総解説』自由国民社 1998年 ・草野厚『日米安保とは何か』PHP研究所 1999年 ・八木勇『キューバ核ミサイル危機』新日本出版社 1995年 <p>※ その他の文献は授業中に指示する。</p> | | |
| <p>[教科書] * 有斐閣『国際条約集2001』 <注意>毎回授業で使いますので、履修登録したら直ちに生協や一般書店で各自購入して下さい（生協一括購入はありません）。4月中旬に版元で在庫切れになることもあります。</p> <p>* 授業で配布する資料</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|--|------|-------|
| 政治学原論 | | 通期 | 4 単位 | 棒 堅 二 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>難しい講義内容になるかも知れないが、政治学の原理及び現代の政治理論についてその理論的な最前線を見据えつつ講義したい。</p> | | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原理と自然 2 政治学の起源 3 人間と政治 4 イデオロギー 5 真理と政治 6 三つの自由主義 7 社会主義 8 国家 | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>①出席を重視する(欠席してはならない)。 ②レポートを頻繁に提出させる。 ③定期試験を実施する。 ④あらかじめ覚悟してもらいたいが、今年度よりきわめて厳格に成績評価を行う。多数の受講者が単位を取得できないことになるだろうが、それでもあえて頑張ろうという諸君の受講を歓迎する。</p> <p>注意:講義中の私語、飲食は絶対に許さない。きびしく叱責し、ただちに退室を命じる。場合によっては、「制裁」を加える。</p> | | <p>[参考文献]</p> <p>講義の際に随時あげる。</p> | | |
| <p>[教科書] 使用しない</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|---------|
| 地域研究Ⅰ（欧米の政治と社会） （旧地域研究Ⅰ） | | 通 期 | 4 単位 | 村 山 高 康 |
| [講義概要・学習目標] アメリカ（合衆国）とヨーロッパ（おもに西欧諸国）の政治と社会の現状分析を中心に講義する。前期は、はじめに欧米政治の現状を理解するため、第2次大戦後の冷戦史の概観を行い、つづいて現代欧米世界の政治・経済・社会に関するとりわけ冷戦構造崩壊後の動向を分析した後、アメリカについて80年代から90年代にかけての大きな社会変動のつづきの考察や、2000年の大統領選挙についても概観を講義する。後期は、欧州連合（EU）の現状と今後の動向について、国家主権・安全保障・経済統合・民族問題・地域統合などの課題を順次とりあげ分析する。 | [講義計画] ＜前期＞1. 冷戦と冷戦後の世界 2. 1980年代以降のアメリカ社会の変動 3. アメリカの伝統的政治思想の混迷 4. 2000年の大統領選挙について ＜後期＞1. ヨーロッパ世界の現状 2. 欧州連合へのあゆみ 3. 欧州連合の現状と問題点 4. 欧米世界の直面する課題 | | | |
| [成績評価の方法] 学年末試験 | [参考文献] 講義の中で随時指示する | | | |
| [教科書] 特定の教科書は使用しない | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| 地域研究Ⅱ（ロシア・東欧の政治と社会） （旧地域研究Ⅱ） | | 通 期 | 4 単位 | 鈴 木 博 信 |
| [講義概要・学習目標] 「ソビエト帝国の栄隆と崩壊」が全体のテーマです。 【Ⅰ】ソビエト連邦（「内帝国」）と東欧支配（「外帝国」）の形成はどのようにして、はじまったか？ 【Ⅱ】東欧諸民族は、どのようにして、どのようにして抵抗したか？ 【Ⅲ】東欧諸国（「外帝国」）はどのようにして、クレムリンの支配から解放（1989）したか？ / またソ連邦本体（「内帝国」）は、どのようにして崩壊したか（1991）？ | [講義計画]【Ⅰ】 ソビエト連邦の東欧支配はどのようにして、はじまったか？ 1. ヤルタ 1945 — 第2次大戦と東欧再分割 2. ベルリン 1948 — 「もう新しい帝国」に、はじめる電撃 【Ⅱ】東欧諸民族は、どのようにして自立・独立を求めたのか？ 3. プラハ 1956 — 「雪どけ」を以て「再凍結」 4. プラハ 1968 — 「人権なき社会主義」は「戦争」 【Ⅲ】東欧諸国はどのようにして、クレムリンの支配から解放したか？ 5. グダニスク 1980 — 「古来の労働者革命」は、社会主義国を揺るがす！ 6. ベルリン 1989 — 「自由市場」登場と「外帝国」の崩壊 7. モスクワ 1991 — ソビエト連邦本体の「内帝国」の瓦解 8. ソビエト連邦は、どのようにして崩壊したか？ | | | |
| [成績評価の方法] ① 年度末試験（レポートに代る） ② 授業中の課題1～2回の小レポート、を総合的に判定する | [参考文献] OPAGM・ウラム、鈴木博信訳「蘇聯の崩壊と共産主義」ソビエト外交史」全3巻 ナイマル出版会 1974 ○川崎香里監修「ソ連の崩壊と東欧」平凡社 1990 ○伊東孝之ほか監修「東欧を知る事典」平凡社 1993 ○スズキ、木本浩太郎「ソ連の崩壊1991」致知堂 1991 ○木下浩「激動の東欧史」中公新書 1990 ○木本浩太郎編「東欧の激動」（『現代史』10）平凡社 1992 ○南塚信吾 編著「東欧革命と民衆」朝日新聞 1992 ○佐藤昌彦「ソ連の崩壊史」朝日新聞 1992 ○マリン・タイ、の原英子訳「ソ連の崩壊」全2巻 草思社 1997 | | | |
| [教科書] 1～2年の子供、パンフレットを作成予定です。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|-----|--|------|-------|
| 地域研究Ⅲ(発展途上国の政治と社会) (旧地域研究Ⅲ) | | 通 期 | 4 単位 | 松村昌廣 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義では、発展途上世界を比較分析するための基本的な発想、着眼点、分析手法を会得することを目的とする。このため、はじめに初歩的な理論的考察を行い、その後、いくつかの重要なケース・スタディーに取り組む。</p> <p>広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性(主要な地域紛争の可能性が高いこと)に鑑み、右の「講義計画」にあるように、大きく分けて3つのテーマを取り扱う。これにより、発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むか、を実例を示しながら学生に理解させたい。</p> <p>ビデオや資料を多用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。したがって、国際関係論や政治学のコースを履修したことがない者でもかなり理解できるような教授法となる。</p> <p>なお、本講義は2000年度「国際政治事情研究」と内容が半分以上重なるため、同講義を履修した者は登録しないことが望ましい。むしろ「国際関係論」を履修するようにしてください。</p> | | <p>[講義計画]</p> <p>1. 総論 1) 国際関係論と地域研究 2) システム論的アプローチ 3) 比較研究アプローチの危機・・・「理論の島々」</p> <p>2 各論 1) 民族紛争 2) 東アジア (1) 朝鮮民主主義人民共和国 (2) 中華人民共和国 (3) 日本 3) 中東・アラブ</p> <p>3 結論 「ポスト冷戦」後の地域研究</p> | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>Aを目指す学生・・・講師の指示に従い研究レポートを作成 B・Cを目指す学生・・・通常の学年末試験を受ける 毎回、出欠をとり、高い出席率がない者には単位を与えない。</p> | | <p>[参考文献]</p> <p>H・J・ウィーアルダ「比較政治の新動向」東信堂、1991。 G・アーモンド、B・パーウェル「比較政治」時潮社、1986。</p> | | |
| <p>[教科書]</p> <p>購入の必要はない。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|-----|--|------|-------|
| 社会地理学 | | 通 期 | 4 単位 | 野尻 亘 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>20世紀の資本主義文明がもたらした都市社会、そこにはさまざまな人々が働き、居住し、生活する社会空間の多様なモザイク模様をみることができる。都市において、高級住宅地やスラム街・オフィス街は、どのようなプロセスを経て成立するのか。欧米都市において、人々はなぜ民族や社会階層によって住み分けてきたのか。このような差別や不平等な空間構造はいかにして作られるのか。平等ですべての人々が共生する都市社会とはどのようなものか。</p> <p>20世紀に入ってから、社会学者や地理学者はこのような問題にさまざまな関心をよせてきた。この授業では、これらの多くの諸学説を展望し、整理するとともに、都市、さらにはその対比としての伝統的な村落社会の社会構造をどのように解明するかを考えることとした。</p> | | <p>[講義計画]</p> <p>1. 序論——地域・景観・空間—— 形態論と機能論的考察 2. 社会理論と地理学 3. 20世紀初めのシカゴ 大都市問題の発生と分析手法の成立 4. 大都市の古典的な社会空間構造モデル 5. シカゴ学派社会学の意義と限界 6. 集約的共同消費としての都市 7. 社会的稀少資源の配分としてみた都市 8. 建造環境としての都市 9. ギデンスの構造化理論と時間地理学 10. マルクス構造主義批判としての都市の人文主義的解読 11. 新しい産業社会 ポストフォーダイズムとジャスト イン タイム 12. 伝統的村落社会の基本空間 13. エスニシティと国家 14. まとめ</p> | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>試験にするかレポートにするかは、授業の進度や履修状況をみて決定する。</p> | | <p>[参考文献]</p> <p>吉原直樹 『都市空間の社会理論』 東京大学出版会 梶田孝道 『エスニシティと社会変動』 有信堂</p> | | |
| <p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 国際政治事情研究 | | 通期 | 4 単位 | 捧 堅 二 |
| [講義概要・学習目標] 現在の国際政治を認識するための基本的な知識の獲得をめざす。 | [講義計画] できるだけ現在進行中の国際情勢に論及したいが、「20世紀」「ヘゲモニー」「文明の衝突」「原理主義」「ジェノサイド」「人道的介入」「核兵器」などのテーマに触れることになるだろう。 | | | |
| [成績評価の方法] ①出席を重視する。欠席してはならない。 ②レポートを頻繁に提出させる。 ③定期試験を実施する。 ④あらかじめ覚悟してもらいたい、今年度よりきわめて厳格に成績評価を行う。多数の受講者が単位を取得できないことになるだろうが、それでもあえて頑張ろうという諸君の受講を歓迎する。 注意：講義中の私語、飲食は絶対に許さない。きびしく叱責し、ただちに退室を命じる。場合によっては、「制裁」を加える。 | [参考文献] 講義の際に、随時、参考文献をあげる。 | | | |
| [教科書] 使用しない | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 政治学 | | 通期 | 4 単位 | 捧 堅 二 |
| [講義概要・学習目標] 受講者が高校の社会科の「政治経済」程度の知識をすでに修得していることを前提にして、政治学と現代政治とを講義する。 受講者自身がメディアの水準を超えたレベルで政治を分析できるようにすることが目標である。 | [講義計画] 1 制度 2 イデオロギー 3 体制 4 歴史 5 状況 | | | |
| [成績評価の方法] ①出席を重視する(欠席してはならない)。 ②レポートを頻繁に提出させる。 ③定期試験を実施する。 ④あらかじめ覚悟してもらいたい、今年度よりきわめて厳格に成績評価を行う。多数の受講者が単位を取得できないことになるだろうが、それでもあえて頑張ろうという諸君の受講を歓迎する。 注意：講義中の私語、飲食は絶対に許さない。きびしく叱責し、ただちに退室を命じる。場合によっては、「制裁」を加える。 | [参考文献] 講義の際に、随時、参考文献をあげる。 | | | |
| [教科書] 使用しない | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 統計学 | | 通 期 | 4 単位 | 井 上 勤 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕 論理的なものは出来るだけさけて具体的なものから統計学の本筋に入っていく。 継続的な受講が統計学の実践に役立つ。 講義概要は講義計画の通りである。 各自電卓は必携である。</p> | <p>〔講義計画〕 (1) 標本調査, 実験計画 (2) 記述統計 (3) 推定, 検定 (4) 決定, 予測 を講義の柱として 1. 統計学とは何か 2. 度数分布 3. データの特性値 4. 多変数データの整理 5. 確率変数と確率分布 6. さまざまな母集団分布 7. 標本分布と正規近似 8. 確率モデルと推定 を取り扱う。</p> | | | |
| <p>〔成績評価の方法〕 主資料は定期試験の成績と平常授業の出席状況である。</p> | <p>〔参考文献〕</p> | | | |
| <p>〔教科書〕 田中勝人 著 統計学 新世社/サイエンス社</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|---------|
| 人間工学概論 | | 通 期 | 4 単位 | 三 戸 秀 樹 |
| <p>〔講義概要・学習目標〕 人間と機械のかかわりは古い。この人間と機械の関係から発生した人間工学に関する基礎的理解を深め、今後の人間と機械の関係のあり方について言及する。近年の機械系、とくにコンピューター化の進歩にともなう、人間らしい“人間-機械”の関係が実現しつつある反面、労働場面では、非人間的な“人間-機械”の関係が観察される。この非人間的側面は、かつて労働にあった「働きがい」をも失わせる要素を有しはじめている。さらに、一部では産業ストレス時代ともいわれ、真に人間中心的な視点に基づいた人間工学導入が緊要である。 単なる既存知識の習得に主眼をおくのではなく、働く人々の個々のおかれている状況・状態にたえず疑問を発しながら、「どうしてそうなのか」「どうすれば良くなるのか」を、人間工学的に考える姿勢を重視する。人間を中心にした視点から人間工学の基本を学びとって欲しい。</p> | <p>〔講義計画〕 <前 期> (1) はじめに 人間工学の定義、労働態様の変化、 (2) 人間特性 生体次元、感覚入力系、覚醒水準、生体リズム、反応特性、性差、 疲労、蓄積性疲労、 <後 期> (3) 人間と機械 マン・マシン・インタフェース、頸肩腕障害、振動障害、VDT作業、 テクノストレス、 (4) 応用人間工学 立ち作業、障害者、二次的障害、高齢化、安全人間工学、交通科学、 (5) 労働の快適化 労働の人間化、ゆとり、人間工学専門家資格、</p> | | | |
| <p>〔成績評価の方法〕 テストとレポートを予定。</p> | <p>〔参考文献〕 労働と健康の科学研究会(編)「労働と健康の科学」(労働経済社) 三戸秀樹ほか(著)「安全の行動科学」(学文社) 千田忠男ほか(著)「労働科学論入門」(北大路書房)</p> | | | |
| <p>〔教科書〕 テキストは使用しない。 プリントを配布します。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|-----|---------|
| 情報システム概論（旧情報処理概論） | 01 | 通 期 | 4単位 | 中 桐 大 壽 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>私たちは、コンピュータと通信の利用なしでは過ごせない情報化社会のなかに生きている。この講義では、急速に発展する情報化社会のなかで活躍するために、常識として必要な情報システムの基礎知識を習得する。ハードウェア、ソフトウェア、ソフトウェア開発技法、データベース、通信技術、システムについての基本を学ぶことを目標とする</p> | <p>[講義計画]</p> <p>[前期] オリエンテーション コンピュータの歴史・情報表現 ハードウェアの構成 コンピュータの処理方式・信頼性</p> <p>[後期] ソフトウェア ソフトウェア開発 ファイルとデータベース 通信ネットワーク コンピュータの光と影 情報化社会と情報システム</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視する。前期と後期の試験に加え、平常点を総合判断する</p> | <p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>井上義祐・小池俊隆編『経営情報概論[改訂版]』同文館</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------|
| 社会学基礎講義 | 21 | 通 期 | 4 単位 | 宮本 孝二 |
| [講義概要・学習目標] 1 社会学の歴史と内容の概略を示した上で、現代社会を分析するための基礎概念及び特質について理解させる。 2 社会生活の基本的な場（家族、地域、組織集団）の基本的特性と現代的变化について理解させる。 3 現代社会の変動に伴って生じる多様な社会問題の現状と対策について理解させる。 | [講義計画] ①社会学の歴史の概要と全体像 ②現代社会の分析；社会生活の基本的な場に見られる変動の諸トレンドと、それにかかわる諸要因、諸帰結の因果連関 ③変動の基本要因としての科学技術の諸相 ④科学技術の社会的・文化的な機能と逆機能 ⑤情報科学技術の社会的・文化的な機能と逆機能 ⑥高度産業社会における労働、職業および経営 ⑦専門職の職業的社会化と組織 ⑧家族の構造と形態の諸類型 ⑨家族の機能と逆機能（家族問題） ⑩家族の類型と機能をめぐる諸トレンド ⑪家族問題の解決と地域社会の役割 ⑫地域社会の構造と形態の諸類型 ⑬都市化と都市問題 ⑭過疎化と地域開発問題 ⑮地域社会を構成する集団・組織と地域問題 ⑯アイデンティティ問題 ⑰現代社会の不平等と差別 ⑱いじめ問題 ⑲消費生活と廃棄問題 ⑳政治的無関心と暴力 ㉑初宗教問題 ㉒檀犯罪と非行 ㉓グローバルな問題（戦争、飢餓、環境など） | | | |
| [成績評価の方法] 後期テストの結果に、出席点、小テスト、レポートなどを加味して総合的に評価する。 | | | | |
| [教科書] 倉橋・丸山編『社会学の視点』ミネルヴァ書房 | [参考文献] その都度指示する。 | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| 社会調査 | 21 | 通 期 | 4 単位 | 清 水 由 文 |
| [講義概要・学習目標] われわれはテレビ、新聞などのマスメディアでの調査結果やグラフを見ることにより現代社会をより明確に理解することができることを知っている。そして社会調査ではそのような資料の調査方法およびその解読方法を学習することを目的としている。さらにそのような調査結果をとおしてより精密な社会理論を構築することができる。したがって、本講義では社会調査の理論と技法を習得するというステップとそれを実際に調査票を作成して調査するという2つのステップを採用する。 | [講義計画] [前期] 1. 社会調査とはなにか 2. 社会調査の展開 3. 社会調査の方法 4. 調査票の作成 5. 調査票の集計 6. ライフ・ヒストリーの調査法 7. 社会調査テスト 8. 夏休みの課題（ライフ・ヒストリーレポート作成） [後期] 1. 実習のグループ分け 2. 意識調査の問題発見と仮説の設定 3. 調査票の作成および印刷 4. 調査の実施 5. 調査票の集計 6. 調査票の分析 7. 調査報告書の作成 | | | |
| [成績評価の方法] 前期試験（20%）、レポート（20%）、出席（30%）、最終報告書（30%）のよる総合評価 | [参考文献] | | | |
| [教科書] 授業時に指示する | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|--|---|--|
| 社会福祉援助技術現場実習Ⅰ | 01 02 03 04 05 06 07 | 後期集中 後期集中 後期集中 後期集中 後期集中 後期集中 後期集中 | 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 | 石田 易司 岡井 哲明 瀧澤 仁唱 松端 克文 松本 眞一 安原 佳子 山本 晃 |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 実習オリエンテーション 2 視聴覚学習 3 社会福祉現場で働く社会福祉士からの講話 4 現場体験学習 5 見学実習 6 見学実習記録に基づくレポートの作成 7 全体総括 | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・出席重視 ・レポート 等で総合的評価 | | | | |
| [教科書] | | | | |
| 授業時指定する。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 社会福祉原論 | | 通 期 | 4 単位 | 松本 眞一 |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。 4 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。 6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と社会福祉 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 2 社会福祉対象の把握方法 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法 4 社会福祉援助活動における専門性と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門性と専門職の内容 2) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方 3) 社会福祉援助活動と倫理 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容 6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係 2) 社会福祉の実施体制 3) 社会福祉の財政と費用負担 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向 | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| 前期はレポート提出を課し、後期は定期試験を実施して、その総合点により成績評価を行う。また、出欠による評価も加味される。 | 福祉士養成講座編集委員会（編） 『社会福祉士養成講座 第1巻 社会福祉原論』 中央法規出版 | | | |
| [教科書] | | | | |
| 松本眞一 編著 『現代社会福祉論』 ミネルヴァ書房（1998年刊） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 社会福祉援助技術総論 | | 後期集中 | 4 単位 | 小山 隆 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉サービスと援助活動の関係について理解させる。</p> <p>2 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。</p> <p>3 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程の体系とそこにおける共通課題について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。</p> <p>4 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解させる。</p> <p>5 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1 社会福祉サービスと援助活動の関係</p> <p>2 福祉専門職と専門援助技術の関係</p> <p>3 専門援助技術の歴史的展開</p> <p>4 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題</p> <p>1) 社会福祉援助活動の目的と価値</p> <p>2) 社会福祉援助活動の原則</p> <p>3) 社会福祉援助活動の諸過程</p> <p>①受理面接（インテーク）と社会診断</p> <p>②社会治療</p> <p>③終結</p> <p>4) 社会福祉援助活動の共通課題</p> <p>①契約・介入・課題の意義と方法</p> <p>②面接の意義と方法</p> <p>③記録の意義と方法</p> <p>④評価の意義と方法</p> <p>⑤スーパービジョンの意義と方法</p> <p>⑥ケースマネジメントの意義と方法</p> <p>5 専門援助技術の体系及び内容</p> <p>1) 直接援助技術</p> <p>①個別援助技術（ケースワーク）</p> <p>②集団援助技術（グループワーク）</p> <p>2) 間接援助技術</p> <p>①地域援助技術（コミュニティワーク）</p> <p>②社会福祉調査法</p> <p>③社会福祉運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）</p> <p>3) その他の関連専門援助技術</p> <p>6 社会福祉援助活動の場と専門援助技術</p> <p>7 専門援助技術と倫理</p> <p>8 専門援助技術の統合化とチームによる対応</p> <p>9 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>①出席点 ②レポート点 ③年度末試験</p> | <p>[参考文献]</p> <p>適宜紹介する。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>適宜紹介する。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|--------|
| 社会福祉援助技術各論 I A | | 通 期 | 4 単位 | 小西 加保留 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉援助技術における直接援助技術の内容と性格・位置づけについて理解させる。</p> <p>2 個別援助技術（ケースワーク）の理論や技法・技術が老人や障害者等のように適用され問題解決へと導くのか、介護と関係づけて事例を通して理解させる。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1 社会福祉援助技術における直接援助技術の位置づけとその内容・性格について</p> <p>2 個別援助技術（ケースワーク）の理論と技法・技術</p> <p>①直接援助技術と個別援助技術</p> <p>②個別援助技術の意義と特徴</p> <p>③個別援助技術の歴史</p> <p>④個別援助技術の構造と構成要素</p> <p>⑤個別援助技術の機能</p> <p>⑥個別援助技術の援助関係と原則</p> <p>⑦個別援助技術の展開過程と技術</p> <p>・受理面接（インテーク）と社会診断</p> <p>・社会治療</p> <p>・終結</p> <p>⑧個別援助技術の新動向（統合論など）</p> <p>⑨面接の意義と技法・技術</p> <p>⑩記録の意義と方法</p> <p>⑪効果測定の意義と技法・技術</p> <p>⑫個別援助技術の適用分野とそこにみられる特殊性</p> <p>⑬スーパービジョンの意義と方法</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート提出、出席状況、学年末試験によって評価する。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>バティスト（著）『ケースワークの原則』（誠信書房）</p> <p>福祉士養成講座編集委員会（編）『社会福祉援助技術各論 I』（中央法規出版）</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>大塚達雄、井垣章二、沢田健二郎、山辺朗子（編著）</p> <p>『ソーシャル・ケースワーク論 社会福祉実践の基礎』（ミネルヴァ書房）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 社会福祉援助技術各論ⅠB | | 通 期 | 4 単位 | 石田 易司 |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| 1 社会福祉援助技術における直接援助技術の内容と性格・位置づけについて理解させる。 2 集団援助技術（グループワーク）の理論や技法・技術が老人や障害者等の問題解決にどのように適用され、問題解決へと導くのか、介護との関係で事例を通して理解させる。 | 1 社会福祉援助技術における直接援助技術の位置づけと内容と性格 2 集団援助技術（グループワーク）の理論と技法・技術 ①直接援助技術と集団援助技術 ②集団援助技術の意義と特徴 ③集団援助技術の歴史 ④集団援助技術の構造と構成要素 ⑤集団援助技術の機能 ⑥集団援助技術の援助関係と原則 ⑦集団援助技術の展開過程と技術 ・準備期 ・開始期 ・作業期 ・終結期 ⑧集団援助技術の各種モデル ⑨観察の意義とその技法・技術 ⑩記録の意義とその方法 ⑪効果測定の意味とその技法・技術 ⑫集団援助技術の適用分野とそこにみられる特殊性 ⑬スーパービジョンの意義とその方法 | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| 毎日の授業のレポートと期末のレポート | 『いきいき高齢者キャンプ』（朱鷺書房） 『痴呆性老人とキャンプ』（朱鷺書房） 『新しいグループワーク』（YMCA同盟） 『ザ・キャンプ』（創元社） | | | |
| [教科書] | | | | |
| 『さかさまの星座』（オモドック） 『CAMPING FOR ALL』（エルビス社） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 社会福祉援助技術各論Ⅱ | | 通 期 | 4 単位 | 玉置 好徳 |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| 1 間接援助技術の内容と性格について理解させる。 2 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。 3 社会福祉調査法の理論と技術について、老人や障害者を対象とする具体的調査に基づき理解させる。 4 社会福祉の運営と計画の技術について理解させる。 | 1 間接援助技術の内容と性格 2 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術 1) 地域援助技術の概念と基本的性格 2) 地域社会の組織化 ①地域組織化 ②福祉組織化 3) 地域援助技術 ①地域社会の診断方法 ②集団及び組織の診断方法 ③住民組織の方法 ④社会資源の開発と活用の方法 ⑤集団及び組織・機関の調整方法 ⑥情報の収集・伝達及び活用方法 ⑦記録と評価の方法とその活用方法 ⑧地域福祉計画の策定方法 3 社会福祉調査法の理論と技術 1) 社会福祉調査の基本的性格と類型 ①基本的性格 ②諸類型 2) 統計調査法における調査技術 ①特質と意義 ②標本抽出の理論と技法 ③調査方法・手順・諸過程及び技術 3) 事例調査における調査技術 ①特質と意義 ②調査方法・手順・諸過程及び技術 | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| 期末課題の評価及び平常成績 | 適宜紹介します。 | | | |
| [教科書] | | | | |
| 全国社会福祉協議会 新・社会福祉学習双書 2001 13 社会福祉援助技術各論Ⅱ（間接援助技術） 「新・社会福祉学習双書 編集委員会／編」 | | | | |

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|--|------|-----|---------|
| 地域福祉論 | | 通期 | 4単位 | 上野谷 加代子 |
| [講義概要・学習目標] 1 地域福祉の理念と内容について理解させる。 2 地域福祉計画の意義と内容、地域福祉の推進方法について理解させる。 3 地域福祉の現状について理解させる。 | [講義計画] 1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉 2 現代社会と地域福祉 1) 地域福祉理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 3 地域福祉の構成 4 地域福祉の推進方法 1) 推進の基本的な考え方 2) 地域福祉計画の意義と内容 3) 市町村と社会福祉協議会の役割と住民参加の意義 4) サービス提供組織とその運営方法 5) 人材の構成及びその動員方法 6) 財源の構成とその調達の方法 7) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連帯のあり方 5 地域福祉の現状 | | | |
| [成績評価の方法] 授業時の小テスト 学年末テスト、レポート等により総合的評価 | [参考文献] 『地域福祉論』（福祉士養成講座編集委員会 編集 中央法規） 他は授業時に提示する。 | | | |
| [教科書] 『地域福祉論』（新・社会福祉学習双書 第10巻 全国社会福祉協議会） | | | | |

| 科目名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
|---|---|------|-----|-------|
| ケアマネージメント | | 後期 | 2単位 | 浜田 和則 |
| [講義概要・学習目標] 講義概要：要介護等高齢者支援の機関で活用されているケアマネージメントの手法や過程を、講義・演習・フィールドワーク（課題・宿題になります。）を交えて実体験的に学習する。講義等の中では関連領域である、介護保険制度の概要・契約、コストマネジメントやマネジメントケア、苦情解決の実際、介護事故対応・防止を主体としたリスクマネジメントについても少しだけ触れたいと考えている。 なお、要介護者等と接する経験がないと講義内容の理解が困難なことが予想されるため、要介護者等施設などでの実習を終了、または開講までに終了予定で、開講期間を通じて欠席せずに来られる人の履修を希望します。よって安易な形で履修は避けていただきたいと考える。 学習目標：理論的な理解と同時に演習・フィールドワークを通じて実体験し、将来実務に役立つ援助技術方法概要の習得を目指す。また、この分野に関心を持ってもらうことにより、実践現場へのマンパワーの輩出をあわせて目標とする。 | [講義計画] 第一回 講義計画とケアマネージメントの概要①～ケアマネージメントの成り立ち～ 第二回 ケアマネージメントの概要②～介護保険制度におけるケアマネージメント～ 第三回 ケアマネージメント過程①～入口、ケース発見、申請・要介護認定調査～（認定調査体験演習；ビデオ使用、二人ペアで調査面接を体験） 第四回 ケアマネージメント過程②～認定審査会、インターク、サービス利用契約～（インターク・サービス利用契約演習；二人ペアで重要事項、契約内容説明） 第五回 ケアマネージメント過程③～アセスメント（1）生活ニーズとアセスメント～ 第六回 ケアマネージメント過程④～アセスメント（2）ニーズアセスメントとアセスメント表～（アセスメント表作成演習；資料、ビデオからアセスメント表を記入） 第七回 ケアマネージメント過程⑤～ケアプラン（1）ケアプランの種類、構造と社会資源～ 第八回 ケアマネージメント過程⑥～ケアプラン（2）居宅サービス計画原案作成～ 第九回 ケアマネージメント過程⑦～サービス担当者会議～サービス担当者会議演習 第十回 ケアマネージメント過程⑧～モニタリングと苦情処理・苦情解決の方法～ 第十一回 日本における施設ケアマネージメントへの潮流 第十二回 ケアマネージメントとリスクマネジメント 第十三回 障害者ケアマネージメントと社会福祉基礎構造改革 第十四回 海外のケアマネージメント [参考文献] 白澤 政和 他編「ケアマネージメント講座①～③」中央法規出版、2000年 浜田 和則 他編「介護支援専門員のしごとを支えるQ&A」中央法規出版、2000年 日本社会福祉士会編「ケアマネジメンツ実務経験者・介護保険料払込職員マニュアル」ミネルヴァ書房、2000年 浜田 和則 他編「ヘルパーステーションの運営管理」中央法規出版、2000年、他 | | | |
| [成績評価の方法] 出欠と各講義時演習の課題物提出、試験により評価。 | | | | |
| [教科書] (財)長寿社会開発センター編「介護支援専門員専門員 基本テキスト」 (財)長寿社会開発センター 刊、2000年(全3巻)5000円 *但し、開講までに改訂版が出版された場合はそちらを教科書とします。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|-----|--|-----|-------|
| 国際社会福祉論 | | 9・12月集中 | 4単位 | 岡 田 徹 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ねらい 地球世紀(global century)と呼ばれる21世紀に生きる私たちにとってキーワードとなる「社会福祉」と「国際化」を、社会福祉学のなかで最も創発的な研究領域である「国際社会福祉論」に着目して考える。また社会福祉を国際的な視野のもとで捉えることをとおして、地球社会の一員であるという自覚や、異なる文化や価値観に対する理解や尊敬の念を養う。受講生には、国際社会福祉の経験や思想、知見や視点を、自分の専門研究に照らして吟味し、また自分の生活や人生の問題として受け止めていただきたい。</p> <p>進め方 講義形式でおこなうが、ビデオを観たり、討論をおこなったりする予定である。 また授業時に小レポートを作成し提出してもらう。</p> | | <p>[講義計画]</p> <p>(1) オリエンテーション(担当者自己紹介、授業日程の説明等) (2) なぜ今「国際社会福祉」か (3) 国際社会福祉とは何か(定義) (4) 国際社会福祉の歴史的生成展開過程(1920年代～) (5) 国際社会福祉の存立根拠(①主権国家の相対化 ②グローバルな市民社会の形成 ③社会福祉のグローバル・ミニマムの制定) (6) 国際社会福祉の問題領域(貧困、南北問題、戦争難民、移民・外国人労働者問題、人権侵害・差別、環境破壊、エイズ) (7) 国際社会福祉の担い手(国際政府間機関、国際市民組織=INGOs、国際社会福祉専門職団体) (8) 国際社会福祉の諸課題(①研究課題/社会開発型ソーシャルワークの構築、国際ソーシャルワーク ②実践課題/内なる国際化の問題 ③教育課題/国際ソーシャルワーカーや国際ボランティアの養成) (9) 市民社会の成熟にむけて/政治(国家・行政) - 経済(市場・企業) - 市民社会(生活文化)のセクター・バランス (10) 世界の社会福祉/①北欧福祉国家 ② EU 社会保険型諸国 ③ 日本・米国 ④途上国アジア、アフリカ、中南米 ⑤旧東欧社会主義国</p> | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>評価方法等：授業時の小レポートおよびレポート、試験</p> | | <p>[参考文献]</p> <p>授業時に適宜紹介する</p> | | |
| <p>[教科書]</p> <p>教科書：仲村優一編『国際社会福祉』（『世界の社会福祉』第12巻）</p> <p>参考書：岡田徹他編著『世界の社会福祉』（学苑社） 松本真一著『現代社会福祉論』（ミネルヴァ書房） 授業時に必要な資料をプリント配布する。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|--|-----|-------|
| 医学一般 | | 通 期 | 4単位 | 郭 麗月 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。 2 臨床医学の各分野の概要について理解させる。 3 医学的リハビリテーションの概要について理解させる。 4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。 5 公衆衛生の概要を理解させる。 6 保健医療対策の概要を理解させる。 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。 8 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。</p> | | <p>[講義計画]</p> <p>1 人体の構造・機能 2 一般臨床医学(内科、外科、整形外科、神経・精神科等)の概要 3 医学的リハビリテーションの概要 4 現代社会と疾病 1) がん、生活習慣病 2) 各種感染症 3) 神経・精神疾患 4) 先天性疾患 5) 難病 6) その他 5 公衆衛生の現状 1) 人口動態 2) 疾病と受療状況 3) 医療関係者 4) 医療施設 6 保健医療対策の現状 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職 1) 医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方</p> | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート、定期試験の成績で評価する。</p> | | <p>[参考文献]</p> <p>適時紹介する。</p> | | |
| <p>[教科書]</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編 社会福祉士養成講座14「医学一般」(中央法規)</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|---|------|-------|
| 精神医学 | | 通 期 | 4 単位 | 岡田 章 |
| [講義概要・学習目標] 1 精神医学、精神医療の歴史を理解させる。 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。 3 精神医学の概念について理解させる。 4 精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。 5 代表的な精神障害について理解させる。 6 治療の概要について理解させる。 7 病院精神医学および地域精神医学について理解させる。 | | [講義計画] 1 精神医学、精神医療の歴史 2 脳および神経の生理・解剖 3 精神医学の概念 1) 精神医学の概念 2) 精神障害の成因と分類 4 診断法 1) 診断の手順と方法 2) 精神症状と状態像 3) 心理検査と身体的検査 5 代表的な精神障害 1) 症状性を含む器質性精神障害 (老人性痴呆を含む) 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害 3) 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害 4) 気分(感情)障害 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 7) 成人の人格および行動の障害 6 治療法 1) 身体的療法 ①薬物療法とその副作用 ②電気ショック療法 2) 精神療法 3) 環境・社会療法 4) 精神科リハビリテーション 7 病院精神医療および地域精神医療 1) 病院精神医療(身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む) 2) 精神科救急医療(インフォームドコンセントを含む) 3) 地域精神医療 8) 精神遅滞 9) 心理的発達障害 10) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害 11) 神経系の疾患(てんかんを含む) | | |
| [成績評価の方法] 前期レポート、後期試験を予定 | | [参考文献] 適時提示する予定 | | |
| [教科書] 精神保健福祉士養成セミナー 第1巻 『精神医学』 (へるす出版) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|--|------|-------|
| ボランティア論 | | 後 期 | 2 単位 | 岡本 栄一 |
| [講義概要・学習目標] 近年、ボランティア活動の広がりが見られる。それは社会福祉領域のみならず、国際、環境などにおいてである。受講生は、主として社会福祉の専門職となるのであるから、以下の点について考える講義にしたい ①ボランティア活動の原理や制度との関係 ②ボランティア活動の領域 ③ボランティアが働きかける対象理解 ④ボランティアセンターやボランティアコーディネーター等の専門的知識などについて | | [講義計画] ①主としてテキストに沿って進めるが、ある章では、プリントを用い、補足しつつ進める ②大きな流れとしては下記の通りで ●ボランティア活動の基礎的・原理的なボランティアリズムやNPOとの関係など ●主として国内でのボランティア活動が中心となるが、災害ボランティアや国際的な活動について ●専門職としてのコーディネーター論 ③可能ならば、ボランティアセンター等の見学も実施したい | | |
| [成績評価の方法] 成績評価は下記の方法で行う ①期末試験 ②出席状況 | | [参考文献] ●講義の際に示す | | |
| [教科書] ①内海成治他編『ボランティア学を学ぶ人のために』 ②出版社：世界思想社 ③定価：(本体)2200円+税 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|--------|
| 社会福祉援助技術演習 | 01 02 | 通 期 | 4 単位 | 竹中 麻由美 |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <p>1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p> <p>3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。</p> | <p>具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。</p> <p>さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。</p> <p>1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。</p> <p>2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p> | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| <p>①平常レポート</p> <p>②課題レポート</p> <p>③試験</p> <p>④授業への参加態度</p> | <p>授業中指示する。</p> | | | |
| [教科書] | | | | |
| F. P. バイスティック『ケースワークの原則』（誠信書房） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 社会福祉援助技術演習 | 03 04 | 通 期 | 4 単位 | 津田 耕一 |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <p>1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p> <p>3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。</p> | <p>具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。</p> <p>さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。</p> <p>1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。</p> <p>2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p> | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| <p>出席率、授業への積極的参加度（発表、ディスカッションなど）、小テスト、レポート提出について評価を行い、総合的にまとめたものを成績評価とする。</p> | <p>E. P. バイスティック著、尾崎新ほか訳『ケースワークの原則』（誠信書房）</p> <p>D. エバンズほか著、杉本照子監訳『面接のプログラム学習』（相川書房）</p> | | | |
| [教科書] | 相澤譲治、津田耕一編著『事例を通して学ぶ社会福祉援助』（相川書房） | | | |
| <p>・津田耕一、相澤譲治編著『ソーシャルワーク実践事例』（八千代出版）</p> <p>・津田耕一『福祉施設職員のための利用者支援手引き』（久美株式会社）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 社会福祉援助技術演習 | 05 | 通 期 | 4 単位 | 藤田 謙 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p> <p>3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。</p> <p>1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。</p> <p>2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況＝50％ 課題レポート（適時）・小テスト（6回）＝50％ 上記の比重にて評価を行う</p> | <p>[参考文献]</p> <p>適時紹介する。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>平山尚・平山佳須美・黒木保博・宮岡京子 『社会福祉実践の新潮流』（ミネルヴァ書房） その他、資料も適時配付する</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 社会福祉援助技術演習 | 06 07 | 通 期 | 4 単位 | 山本 克彦 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p> <p>3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。</p> <p>1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。</p> <p>2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>演習形態の授業であるため、出席を最重視する。 他にはレポート（年2回）、演習における態度・姿勢により総合評価をする。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>津村俊充、山口真人（編）『人間関係トレーニングー私を育てる教育への人間学的アプローチ』（ナカニシヤ出版） 津村俊充、星野欣生『Creative Human Relations Vol I～Ⅷ』（プレスタイム） 平山尚、平山佳須美、黒木保博、宮岡京子（共著） 『社会福祉実践の新潮流ーエコロジカル・システム・アプローチ』（ミネルヴァ書房） 諏訪茂樹著 『援助者のためのコミュニケーションと人間関係』（建帛社） 他 適宜紹介</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>演習ごとに資料、ワークシート等を配布する。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|---|
| 社会福祉援助技術現場実習Ⅱ | 01 | 通 期 | 2 単位 | 郭 麗月 北野 誠一 阪野 学 坂本 光哉 淡野 勝也 坪山 孝 西浦 太一 松端 克文 安原 佳子 田中 信行 |
| | 02 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 03 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 04 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 05 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 06 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 07 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 08 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 09 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 10 | 通 期 | 2 単位 | |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をやるうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 配属実習オリエンテーション 専門援助技術実技指導 面接実技指導 記録実技指導 評価・効果測定実技指導 配属実習 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成 レポートに基づく個別指導 全体総括会 | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| <p>全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。</p> | | | | |
| [教科書] | | | | |
| <p>授業時指定する。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|--|
| 社会福祉援助技術現場実習Ⅲ | 01 | 通 期 | 2 単位 | 大野 定利 坂本 光哉 佐竹 紀美子 坪山 孝 藤田 満 松端 克文 安原 佳子 山本 克彦 田中 信行 |
| | 02 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 03 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 04 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 05 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 06 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 07 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 08 | 通 期 | 2 単位 | |
| | 09 | 通 期 | 2 単位 | |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をやるうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 配属実習オリエンテーション 専門援助技術実技指導 面接実技指導 記録実技指導 評価・効果測定実技指導 配属実習 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成 レポートに基づく個別指導 全体総括会 | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| <p>全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。</p> | | | | |
| [教科書] | | | | |
| <p>授業時指定する。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| 社会福祉援助技術現場実習Ⅳ | 01 | 通 期 | 2 単位 | 小 西 加保留 |
| 【実習概要・学習目標】 1. 保健医療の領域におけるソーシャルワークの現状を把握する。 2. 医療機関による業務の違いを理解する。 3. 必要な社会資源について、その枠組みを理解する。 4. ソーシャルワークの価値や倫理について具体的実践的に考察する。 5. ソーシャルワークの技術について実践的に理解する。 6. 対象領域別に必要な知識を整理し、把握する。 7. チーム医療のあり方について学習する。 | 【実習計画】 1. 所定の医療機関において実習を行い、スーパービジョンを受ける。 2. 講義においては、様々な現場での実習体験を持ち寄り、意見交換を行う。 3. 学習目標に沿って、各自の学習を深め整理する。 | | | |
| 【成績評価の方法】 現場での評価、授業での参加度、理解度等を総合的に評価する。 | 【参考文献】 講義において適宜紹介する。 | | | |
| 【教科書】 荒川義子（編）『医療ソーシャルワーカーの仕事』（川島書店）2000 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 社会福祉援助技術現場実習Ⅳ | 02 | 通 期 | 2 単位 | 藤 田 譲 |
| 【実習概要・学習目標】 このクラスは、保健医療機関（精神保健分野を除く）で実習を行う学生を対象とするので、これまで履修した科目・実習体験を踏まえて、以下の目標に沿って運営していく。 1 保健医療機関での実習に求められるマナーを身に付ける 2 各自の実習施設の機能や特徴を理解する 3 保健医療の現状について、実習体験を基に理解を深める 4 保健医療におけるソーシャルワークの意義と、ソーシャルワーカーの役割を考える このほかに、より良い実習となるよう、学生から個々の実習状況や実習成果を報告してもらい、体験を共有していきたい。また、必要に応じて、個別に実習をフォローする予定である。 | 【実習計画】 【前 期】 実習前もしくは初期の段階として、以下の課題を行う。 1 保健医療機関での実習オリエンテーション 2 電話の応答・来客への対応のマナーの習得 3 実習施設の機能や特徴の把握 4 保健医療の現状と問題についての理解 5 実習状況の報告 【後 期】 実習の経過を踏まえて、以下の課題を行う。 1 実習状況の報告 2 実習施設におけるソーシャルワーカー業務の把握 3 実習施設におけるソーシャルワーカーの役割の理解 4 実習成果の確認とまとめ 5 卒業後の職業生活に向けての課題の整理 | | | |
| 【成績評価の方法】 クラスへの出席・課題の提出・実習先の評価を総合して評価する クラス及び実習については、原則として毎回出席が必要である | 【参考文献】 荒川義子編著『スーパービジョンの実際』（川島書店）1991年 荒川義子編著『医療ソーシャルワーカーの仕事』（川島書店）2000年 | | | |
| 【教科書】 適時資料を配布する | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|--|------|-------|
| 社会福祉発達史 (旧社会福祉発達史Ⅰ・Ⅱ) | | 9・12月集中 | 4 単位 | 慎 英 弘 |
| [講義概要・学習目標] 本講義では、イギリスと日本の社会福祉発達史を研究する。 特に貧民問題の歴史をあり、その対応の仕方でいかにして、現在の社会福祉が形成される過程を研究する。 この講義をとおして、「権利」としての社会福祉がどのように形成されてきたかを理解させ、今日の社会福祉が真に利用者のニーズを充足させるにはどのようなあり方に向けるべきかを考えることが出来ることを目指している。 | [講義計画] 1. 社会福祉の歴史 2. イギリスの社会福祉の歴史文 3. 貧民病と人口問題 4. 労働者階級の発布 5. 救済法の情状 6. 封建団体の没落 7. 団の込み運動と農民の土地の没落 8. 修道院の解散と貧民の救済 9. 1504年の救済法 10. 1531年の救済法 11. 1536年の救済法 12. 1597年の貧民救済法 | 13. 18救済法 14. ナップール法と貧民対策 15. ギルバート法と貧民対策 16. スコーナムランド制度 17. マルサスの情民養成論 18. 新政会法の成立 19. ウェルズの社会調査 20. 労働者階級とベリヤン報告書 21. 日本社会福祉の歴史文 22. 恤政規則制定以前の貧民対策 23. 恤政規則制定をめぐり論議 24. 恤政規則改正のうごき 25. 救済法の制定とその内容 26. 労働者階級制度の成立 27. 労働者階級の活動 | | |
| [成績評価の方法] 筆記試験の結果によって評価する。 | [参考文献] 講義時に随時紹介する | | | |
| [教科書] 使用しない。 | | | | |

< OOSW生対象 >

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|--|------|--------------------------|
| 精神保健福祉論 | | 通 期 | 4 単位 | (前期) 栄 セツコ (後期) 柏木 一恵 |
| [講義概要・学習目標] 1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。 2 精神障害者の人権について理解させる。 3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。 4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。 6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。 7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。 | [講義計画] 1 障害者福祉の理念と意義 1) 障害者福祉の理念 ①障害者福祉の発達 ②ノーマライゼーション ③リハビリテーション ④生活の質 (QOL) ⑤生活支援 2) 障害及び障害者 ①障害の概念 ②障害分類 (国際障害分類を含む) ③精神障害の特性 3) 障害者福祉の基本施策 ①障害者基本法 ②障害者プラン 4) 現代社会と精神障害者 ①精神障害者の概念 ②精神障害者と家族 ③精神障害者と地域社会 ④精神障害者のノーマライゼーション 2 精神障害者の人権 1) 精神障害者の権利擁護 2) 精神医療における権利擁護 3) インフォームドコンセント 4) 地域社会における精神障害者の人権 3 精神保健福祉士の理念と意義 1) 精神保健福祉士の歴史と理念 2) 精神保健福祉士の意義 3) 精神保健福祉士の対象 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理 4 精神障害者に対する相談援助活動 1) 精神障害者を取りまく社会的障壁 (バリアー) | 2) 精神障害者の主体性の尊重 3) 相談援助活動の方法 ①医療施設における相談援助活動 ②社会復帰施設等における相談援助活動 ③地域社会における相談援助活動 4) 相談援助活動の事例 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律 1) 精神保健福祉法の意義と内容 2) 精神保健福祉士法の意義と内容 3) 関連法について 6 精神保健福祉施策の概要 1) 精神保健福祉に関する行政組織 2) 精神保健福祉に係る公的負担制度 (公費負担医療等) 3) 精神保健福祉施策の課題 ①精神障害者福祉対策 ②社会復帰対策 4) 精神保健福祉における社会資源 ①精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携 ②社会資源 7 精神保健福祉の関連施策 1) 雇用・就業 (障害者雇用促進法等の概要を含む) 2) 所得保障 3) 経済負担の軽減 4) 生活環境の改善 | | |
| [成績評価の方法] 出席日数、レポート | [参考文献] 『我が国の精神保健福祉』 監修 厚生省大臣官房障害者保健福祉部精神保健福祉課 発行 厚健出版株式会社 | | | |
| [教科書] 『精神保健福祉論』 (へるす出版) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|---------|
| 医療保健福祉論 (旧医療福祉論) | | 通 期 | 4 単位 | 小 西 加保留 |
| [講義概要・学習目標] 1. 医療保健福祉の理念と意義を理解させる。 2. 医療保健福祉施策の概要について理解させる。 3. 医療保健福祉の対象者の人権について理解させる。 4. 医療保健福祉の対象と機能を理解させる。 5. 医療保健福祉の相談援助活動の内容を理解させる。 | [講義計画] 1. 医療保健福祉の理念と意義 1) 医療の変遷と社会福祉 2) 医療モデルと福祉モデル 3) 生命倫理と福祉 2. 医療の流れとソーシャルワーク 3. 保健医療分野におけるソーシャルワークの歴史 4. 医療施策の変遷と医療保健福祉 5. 医療保健福祉の相談援助活動 1) 業務指針 (1) 経済的問題への援助 (2) 療養中の心理社会的問題への援助 (3) 受診・受療援助 (4) 退院援助 (5) 地域活動 2) 相談援助活動の実際 (1) ライフサイクルと相談援助 (2) 対象別援助 6. チーム医療 7. 医療保障制度の概要 | | | |
| [成績評価の方法] 出席状況、複数のレポート等によって総合的に評価する。 | [参考文献] 保健医療の専門ソーシャルワーク研究会『保健医療の専門ソーシャルワーク』 (中央法規出版) 1996 杉本照子他監修『ソーシャルワークの業務マニュアル』(川島書店) 1997 大本和子他著『医療ソーシャルワーク実践50例』(川島書店) 1999 | | | |
| [教科書] 講義時に資料等配布する。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------|
| 社会福祉施設運営論 | | 後 期 | 2 単位 | 坪 山 孝 |
| [講義概要・学習目標] 今日の社会福祉施策はノーマリゼーション及び在宅生活の継続性などを目標にしている。これが社会福祉施設に地域化や多機能化の課題を与え、その経営に大きく影響している。 しかし現在でも施設の重要な役割は利用者に対するサービスにある。施設を利用する個人及び家族の自立を支える社会的装置という視点から施設の有用性を考え、経営主体の形態やサービス・人事・財務などの諸管理について講義し、総合的に施設の運営管理を学習する契機としたい。 また、高齢者の施設は介護保険制度に移行し、利用者本位のサービス提供を目標に自己選択・苦情対応・第3者評価などの新しい仕組みを導入する責任があるので、これらについても考える。 | [講義計画] 1 社会福祉施設の沿革 2 社会福祉施設の体系と制度 3 社会福祉施設の経営と社会福祉法人制度 4 利用者のニーズとサービス管理 5 社会福祉施設と業務管理 6 社会福祉施設と地域社会 7 社会福祉施設と従事者 8 社会福祉施設の建物、設備 9 社会福祉施設と介護保険制度 | | | |
| [成績評価の方法] 学期末試験による | [参考文献] 随時、授業中に紹介する | | | |
| [教科書] 新・社会福祉学術双書 編集委員会編 社会福祉施設運営論 全国社会福祉協議会 発行 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|------|---------|---------|----|-----------|-----------|----|-----------|------------|----|-----------|------------|----|----------|--------------------|----|----------|------------|----|----------|------------|----|----------|------------|----|-----------------|------------|----|-----------------|-------------|----|-----------------|-------------|----|-----------------|--------------|--|--|--------------|--|--|--------------|--|--|--------------|--|--|
| 社会福祉法制論 (旧社会福祉法制) (旧社会福祉の発達と法制) | | 通 期 | 4 単位 | 瀧 澤 仁 唱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉(狭義)の法制度全体の理解</p> <p>2 社会福祉の権利と日本国憲法の関連の理解</p> <p>3 社会福祉に関連する諸法規の理解</p> | <p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr><td>1 ガイダンス</td><td>16</td><td>障害者福祉法(5)</td></tr> <tr><td>2 社会福祉の意義</td><td>17</td><td>障害者福祉法(6)</td></tr> <tr><td>3 社会福祉法の発生</td><td>18</td><td>障害者福祉法(7)</td></tr> <tr><td>4 憲法と社会福祉法</td><td>19</td><td>老人福祉法(1)</td></tr> <tr><td>5 社会保障法の中の社会福祉法の位置</td><td>20</td><td>老人福祉法(2)</td></tr> <tr><td>6 社会福祉法(1)</td><td>21</td><td>老人福祉法(3)</td></tr> <tr><td>7 社会福祉法(2)</td><td>22</td><td>老人福祉法(4)</td></tr> <tr><td>8 社会福祉法(3)</td><td>23</td><td>児童および母子福祉関係法(1)</td></tr> <tr><td>9 社会福祉法(4)</td><td>24</td><td>児童および母子福祉関係法(2)</td></tr> <tr><td>10 社会福祉法(5)</td><td>25</td><td>児童および母子福祉関係法(3)</td></tr> <tr><td>11 社会福祉法(6)</td><td>26</td><td>児童および母子福祉関係法(4)</td></tr> <tr><td>12 障害者福祉法(1)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13 障害者福祉法(2)</td><td></td><td>(授業進度および学生の希望により講義順序および内容が変わる可能性があります)</td></tr> <tr><td>14 障害者福祉法(3)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15 障害者福祉法(4)</td><td></td><td></td></tr> </table> | | | | 1 ガイダンス | 16 | 障害者福祉法(5) | 2 社会福祉の意義 | 17 | 障害者福祉法(6) | 3 社会福祉法の発生 | 18 | 障害者福祉法(7) | 4 憲法と社会福祉法 | 19 | 老人福祉法(1) | 5 社会保障法の中の社会福祉法の位置 | 20 | 老人福祉法(2) | 6 社会福祉法(1) | 21 | 老人福祉法(3) | 7 社会福祉法(2) | 22 | 老人福祉法(4) | 8 社会福祉法(3) | 23 | 児童および母子福祉関係法(1) | 9 社会福祉法(4) | 24 | 児童および母子福祉関係法(2) | 10 社会福祉法(5) | 25 | 児童および母子福祉関係法(3) | 11 社会福祉法(6) | 26 | 児童および母子福祉関係法(4) | 12 障害者福祉法(1) | | | 13 障害者福祉法(2) | | (授業進度および学生の希望により講義順序および内容が変わる可能性があります) | 14 障害者福祉法(3) | | | 15 障害者福祉法(4) | | |
| 1 ガイダンス | 16 | 障害者福祉法(5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 社会福祉の意義 | 17 | 障害者福祉法(6) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 社会福祉法の発生 | 18 | 障害者福祉法(7) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 憲法と社会福祉法 | 19 | 老人福祉法(1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 社会保障法の中の社会福祉法の位置 | 20 | 老人福祉法(2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 社会福祉法(1) | 21 | 老人福祉法(3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 社会福祉法(2) | 22 | 老人福祉法(4) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 社会福祉法(3) | 23 | 児童および母子福祉関係法(1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 社会福祉法(4) | 24 | 児童および母子福祉関係法(2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 社会福祉法(5) | 25 | 児童および母子福祉関係法(3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 社会福祉法(6) | 26 | 児童および母子福祉関係法(4) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 障害者福祉法(1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 障害者福祉法(2) | | (授業進度および学生の希望により講義順序および内容が変わる可能性があります) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 障害者福祉法(3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 障害者福祉法(4) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>論述式筆記試験</p> | <p>[参考文献]</p> <p>『社会福祉六法 2001(平成13)年版』(新日本法規)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>法改正のため、適当な教科書が間にあわないので、授業開始後に指示します。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--------------------|------|---------|-------------|---|--------------------|--------------|--|---------|----------|--|---------|----------|--|--------------|-------------|--|--|----------------------------------|---|--------------------|---------|--|-----------|---------|--|---------|---------|--|----------------|---------|--|-------------|---------------|--|-------------|---------------|--|-------|---------|--|------------------|------------|--|--|
| 社会保障論 | | 通 期 | 4 単位 | 里 見 賢 治 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解させる。</p> <p>2 社会保障制度の体系について理解させる。</p> <p>3 社会保障の各制度の概要について理解させる。</p> <p>4 我が国の年金保険について熟知させる。</p> <p>5 我が国の医療保険について熟知させる。</p> <p>6 我が国の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。</p> <p>7 社会保障の実施体制及び専門職について理解させる。</p> | <p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr><td>1 現代社会と社会保障</td><td>4</td><td>我が国の年金保険制度とその具体的内容</td></tr> <tr><td>1) 社会保障理念の発達</td><td></td><td>1) 国民年金</td></tr> <tr><td>2) 概念と範囲</td><td></td><td>2) 厚生年金</td></tr> <tr><td>3) 役割と意義</td><td></td><td>3) 各種共済組合の年金</td></tr> <tr><td>2 社会保障制度の体系</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要</td><td>5</td><td>我が国の医療保険制度とその具体的内容</td></tr> <tr><td>1) 年金保険</td><td></td><td>1) 国民健康保険</td></tr> <tr><td>2) 医療保険</td><td></td><td>2) 健康保険</td></tr> <tr><td>3) 介護保険</td><td></td><td>3) 各種共済組合の医療保険</td></tr> <tr><td>4) 労災保険</td><td></td><td>6 公的施策と民間保険</td></tr> <tr><td>5) 失業保険(雇用保険)</td><td></td><td>1) 公的施策との関係</td></tr> <tr><td>6) 家族手当(児童手当)</td><td></td><td>2) 現状</td></tr> <tr><td>7) 公的扶助</td><td></td><td>7 社会保障の実施体制及び専門職</td></tr> <tr><td>8) その他関連制度</td><td></td><td></td></tr> </table> | | | | 1 現代社会と社会保障 | 4 | 我が国の年金保険制度とその具体的内容 | 1) 社会保障理念の発達 | | 1) 国民年金 | 2) 概念と範囲 | | 2) 厚生年金 | 3) 役割と意義 | | 3) 各種共済組合の年金 | 2 社会保障制度の体系 | | | 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要 | 5 | 我が国の医療保険制度とその具体的内容 | 1) 年金保険 | | 1) 国民健康保険 | 2) 医療保険 | | 2) 健康保険 | 3) 介護保険 | | 3) 各種共済組合の医療保険 | 4) 労災保険 | | 6 公的施策と民間保険 | 5) 失業保険(雇用保険) | | 1) 公的施策との関係 | 6) 家族手当(児童手当) | | 2) 現状 | 7) 公的扶助 | | 7 社会保障の実施体制及び専門職 | 8) その他関連制度 | | |
| 1 現代社会と社会保障 | 4 | 我が国の年金保険制度とその具体的内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) 社会保障理念の発達 | | 1) 国民年金 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) 概念と範囲 | | 2) 厚生年金 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) 役割と意義 | | 3) 各種共済組合の年金 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 社会保障制度の体系 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要 | 5 | 我が国の医療保険制度とその具体的内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1) 年金保険 | | 1) 国民健康保険 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2) 医療保険 | | 2) 健康保険 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3) 介護保険 | | 3) 各種共済組合の医療保険 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4) 労災保険 | | 6 公的施策と民間保険 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5) 失業保険(雇用保険) | | 1) 公的施策との関係 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6) 家族手当(児童手当) | | 2) 現状 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7) 公的扶助 | | 7 社会保障の実施体制及び専門職 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8) その他関連制度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験等で総合的に評価する。 前後期試験のいずれかを受験しなかった者は、単位認定できない。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>里見賢治(著)『日本の社会保障をどう読むか』(労働旬報社、1990年) 里見賢治、二木立、伊東敦文(共著)『公的介護保険に異議あり』(ミネルヴァ書房、初版1996年、増補版1997年) 里見賢治ほか(共著)『福祉財政論』(ミネルヴァ書房、1989年) 一圓光弥(著)『自ら築く福祉』(大蔵省印刷局、1993年) その他、適宜紹介する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>レジュメを配布する。</p> <p>教科書を使用するかどうかは検討中。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|-----|---------|
| 社会福祉行財政論 | | 後 期 | 2単位 | 八 田 和 子 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1. 社会福祉行財政システムの基礎構造を把握した上で、現代社会福祉をめぐる理論問題への理解を深める。「ニーズ」「サービス」「再分配」「参加」等の福祉政策における基礎概念、さらに「普遍性・選別性」「公正・平等」「効率性」等、福祉政策における判断基準をめぐる諸説を整理し、紹介してゆく。</p> <p>2. 近年の福祉政策において重要なトピックを取り上げ、社会福祉行財政システム分析の具体的な切り口を学ぶ。主として介護保険および社会福祉基礎構造改革等を扱う。</p> <p>3. 受講者の自主学習を促進し、必要に応じて自ら社会福祉行財政に関する資料・文献の収集・整理を行えるよう、その方法について適宜触れる。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1. 導入</p> <p>2. 社会福祉行財政システムの基礎構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の組織と専門職 ・福祉制度の枠組み—措置制度・利用契約制度・介護保険制度 <p>3. 社会福祉行財政をめぐる理論問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎概念と諸論点 ・社会福祉の権利と裁量をめぐる諸問題 ・社会福祉の公私関係 ・福祉サービスにおける利用者負担 ・福祉サービスの財源調達 <p>4. 社会福祉行財政システム改革の動向と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・措置制度の歴史的展開と争点 ・公的介護保障システムの現状と課題 ・社会福祉基礎構造改革について | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点（出席、小レポート）および試験</p> | <p>[参考文献]</p> <p>講義の中で適宜提示するが、さしあたり以下の文献を参照のこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重野卓・平岡公一編『福祉政策の理論と実際—福祉社会学研究入門』東信堂、2000年 ・岩田正美・上野谷加代子・藤村正之『ウェルビーイング・タウン社会福祉入門』有斐閣アルマ、1999年 ・大山博・武川正吾編『社会政策と社会行政—新たな福祉の理論の展開をめざして—』法律文化社、1991年 | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>無し（講義でレジュメ・資料を配布する）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|---------|-----|---------|
| 社会福祉計画論 | | 9・12月集中 | 4単位 | 松 原 一 郎 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会福祉施策を具体的・合理的に進めていくための方法として社会福祉計画がある。それは、社会変動や公的セクターの働きや政策と不可分の関係にある。</p> <p>社会福祉計画の基礎概念や類型を学びながら、個別分野の計画——介護保険、障害者プラン、エンゼルプラン——についても学生諸君の発表にあわせて論及していく。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>レクチャーとディスカッションで2コマを形成する。</p> <p>前半 ①社会変動と社会福祉制度 ②社会福祉計画とは何か：基礎概念、構成要素 ③公的計画と民間計画</p> <p>後半 ④計画の個別具体的事例：高齢者、障害者、児童、地域福祉等 ⑤まとめ：ニーズ、計画と参画、評価</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>平常試験による。（レポート・発表を含む）</p> | <p>[参考文献]</p> <p>『社会福祉計画』 定藤・坂田・小林共編、有斐閣、1996 『厚生白書』</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|------|-------|
| 老人福祉論 | | 通 期 | 4 単位 | 坪山 孝 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 老人の精神的・身体的特徴や障害について理解させるとともに、老人福祉の社会的背景について理解させる。</p> <p>2 現代社会における老人福祉の理念と意義について理解させる。</p> <p>3 老人の福祉需要の把握方法について理解させる。</p> <p>4 老人福祉に関する法（介護保険法及び老人保健法等を含む）とサービスの体系について理解させる。</p> <p>5 民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解させる。</p> <p>6 老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。</p> <p>7 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具について理解させる。</p> <p>8 老人に対する相談援助活動について理解させる。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1 高齢社会と老人 1) 老化と老人 2) 家族と老人 3) 社会と老人福祉</p> <p>2 現代社会と老人福祉 1) 老人福祉理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義</p> <p>3 老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容 1) 把握方法 2) 具体的内容</p> <p>4 老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容 1) 老人福祉法 2) 介護保険法 3) 老人保健法及びその他の関連法規</p> <p>5 老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状 1) 在宅サービス 2) 施設サービス</p> <p>6 民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状</p> <p>7 老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方 1) 組織・専門職 2) 連携のあり方</p> <p>8 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具 1) 地域と住環境の整備（バリアフリーへの対応） 2) 福祉用具</p> <p>9 老人に対する相談援助活動 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点 2) 具体的事例</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績によって評価する。</p> | | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>新・社会福祉学習双書、第5巻 老人福祉論、全国社会福祉協議会</p> | <p>[参考文献]</p> <p>『厚生省の指標、国民の福祉の動向』の他に、随時、講義中に紹介する。</p> | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 児童福祉論 | | 通 期 | 4 単位 | 松本 眞一 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解させるとともに、児童福祉の社会的背景について理解させる。</p> <p>2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解させる。</p> <p>3 児童の福祉需要の把握方法について理解させる。</p> <p>4 児童福祉に関する法とサービスの体系について理解させる。</p> <p>5 民間サービスの社会的意味とその現状について理解させる。</p> <p>6 児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。</p> <p>7 児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解させる。</p> <p>8 児童に対する相談援助活動について理解させる。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1 現代社会と児童 1) 人間の成長・発達と児童 2) 家族と児童 3) 社会と児童</p> <p>2 現代社会と児童福祉 1) 児童福祉理念の発達 2) 概念と範囲 3) 役割と意義 4) 児童の権利及び児童虐待</p> <p>3 児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容 1) 把握方法 2) 具体的内容</p> <p>4 児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容 1) 児童福祉法 2) 母子及び寡婦福祉法 3) 母子保健法 4) その他関連法規</p> <p>5 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状 1) 在宅サービス 2) 施設サービス</p> <p>6 民間サービスの役割と意義及びその現状</p> <p>7 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具 1) 地域及び住環境の整備 2) 福祉用具</p> <p>8 児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方 1) 組織・専門職 2) 連携のあり方</p> <p>9 児童に対する相談援助活動 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点 2) 具体的事例</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>前期はレポート提出を課し、後期は定期試験を実施して、その総合点により成績評価を行う。また、出欠による評価も加味される。</p> | | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>松本眞一 著 『児童福祉論』 相川書房（1995年刊）</p> | <p>[参考文献]</p> <p>福祉士養成講座編集委員会（編） 『社会福祉士養成講座 第4巻 児童福祉論』（中央法規出版）</p> | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 障害者福祉論 | | 通 期 | 4 単位 | 北野 誠一 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 現代社会における障害の理念と障害者の実態を理解させるとともに、障害者福祉の社会的背景について理解させる。</p> <p>2 現代社会における障害者福祉の理念と意義について理解させる。</p> <p>3 障害者の福祉需要の把握方法について理解させる。</p> <p>4 障害者福祉に関するの法とサービスの体系について理解させる。</p> <p>5 民間活動及び民間サービスの意味とその現状について理解させる。</p> <p>6 障害者福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。</p> <p>7 障害者に対する相談援助活動について理解させる。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1 現代社会と障害及び障害者</p> <p>1) 障害の概念</p> <p>2) 家族と障害者</p> <p>3) 社会と障害者</p> <p>2 現代社会と障害者福祉</p> <p>1) 障害者福祉理念の発達</p> <p>①リハビリテーション</p> <p>②ノーマライゼーション</p> <p>2) 概念と範囲</p> <p>3) 役割と意義</p> <p>3 障害者の福祉需要の把握方法とその具体的内容</p> <p>1) 把握方法</p> <p>2) 具体的内容</p> <p>4 障害者福祉に関するの法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容</p> <p>1) 障害者基本法とリハビリテーション体系</p> <p>2) 障害別福祉サービスの体系と内容</p> <p>①障害児</p> <p>②身体障害者</p> <p>③知的障害者</p> <p>④精神障害者</p> <p>3) 関連法による施策</p> <p>①保健・医療</p> <p>②教育</p> <p>③雇用・就労</p> <p>④年金、手当及び経済的負担の軽減</p> <p>⑤住宅・生活環境（バリアフリーへの対応）</p> <p>5 民間活動及び民間サービスの役割と意義及びその現状</p> <p>1) 民間活動</p> <p>2) 民間サービス</p> <p>6 障害者福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方</p> <p>1) 組織・専門職</p> <p>2) 連携のあり方</p> <p>7 障害者に対する相談援助活動</p> <p>1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点</p> <p>2) 具体的事例</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート及び試験</p> | | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>定藤、佐藤、北野 編著『現代の障害者福祉』（有斐閣）</p> | <p>[参考文献]</p> <p>定藤、岡本、北野 編著『自立生活の思想と展望』（ミネルヴァ書房）</p> <p>定藤、中西、北野 編著『障害者の自立生活センター』（朝日新聞厚生文化事業団）</p> <p>総理府 編『障害者白書』（平成12年版）</p> | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 公的扶助論 | | 通 期 | 4 単位 | 瀧澤 仁唱 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。</p> <p>2 生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。</p> <p>3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方について理解させる。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1 現代社会と公的扶助</p> <p>1) 公的扶助理念の発達</p> <p>2) 概念と範囲</p> <p>3) 役割と意義</p> <p>2 低所得対策の概要</p> <p>3 生活保護制度のしくみ</p> <p>1) 目的</p> <p>2) 基本原理</p> <p>3) 保護の原理</p> <p>4) 保護の種類と内容</p> <p>5) 保護の機関と実施体制及び財源</p> <p>6) 保護施設の種類</p> <p>7) 被保護者の権利及び義務</p> <p>4 生活保護の最近の動向</p> <p>5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方</p> <p>1) 組織・専門職 2) 連帯のあり方</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>論述式筆記試験</p> | <p>[参考文献]</p> <p>『社会福祉六法 2001（平成13）年版』（新日本法規）</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>法改正のため、適当な教科書が間にあわないので、授業開始後に指示します。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|---------|
| 家族福祉論 | | 通 期 | 4単位 | 中 村 永 司 |
| [講義概要・学習目標] 現代社会における家族の携帯や構造機能を探り、現代家族の問題や動向を究明してその対応策を探る。 ① 家族福祉をとらえる視点 ② 現代社会の特質 ③ 家族機能の変化 ④ 現代家族の母子関係 ⑤ 児童・障害・高齢者問題とその対応策 ⑥ 家族支援ソーシャルワーク ⑦ 臨床的ケアマネージメント | [講義計画] 講義の前半で現代社会の特質を分析し、現代社会の特質に現代家族のかかわりを明らかにし、現代家族の特色を抽出する。 後半では、家族のかかえる諸問題に対応した方策や方法を考える。 | | | |
| [成績評価の方法] 後期試験 | [参考文献] なし | | | |
| [教科書] 指定なし | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|-----|---------|
| リハビリテーション論 | | 後 期 | 2単位 | 奥 田 邦 晴 |
| [講義概要・学習目標] 障害者が豊かな自立生活を営んでいく上で、リハビリテーションから自立生活への連携が非常に重要であり、そのリハビリテーションは、適切な時期および必要最小限に時間を限定したリハビリテーションでなくてはならない。ノーマライゼーション社会の構築を目標に、このリハビリテーションを包括的な視点からとらえ、保健・医療・福祉の一体化を押し進めていくことを目標とする。 なお、リハビリテーションチームの一員として、障害についての理解を深めることは非常に大切である。よって、リハビリテーションが大きな意義を持つ代表的な疾患を取り上げ、それぞれの障害やリハビリテーションアプローチについて解説する。 | [講義計画] 1.リハビリテーション総論 2.障害と評価 3.各種専門職種 4.疾患・病態からみたりハビリテーションの実際 5.リハビリテーション工学 6.障害者のスポーツ 7.地域ケア 8.その他 | | | |
| [成績評価の方法] 筆記試験 | [参考文献] 「入門リハビリテーション概論」 中村隆一 医歯薬出版株式会社 「リハビリテーション論」 福祉士養成講座編集委員会 中央法規 「リハビリテーションの臨床とケア」 土肥信之 ライフ・サイエンス・センター 「リハビリテーションの理論と実際」 上田 敏 ミネルヴァ書房 「リハビリテーションを考える」 上田 敏 障害者問題双書 他 | | | |
| [教科書] 指定なし | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|-----|---------|
| 人格発達論 | | 前期集中 | 4単位 | 岡 井 哲 明 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>急速な時代の変化に一方で戸惑いながらも、その流れに乗って泳いでいくことも大事なことである。価値観の多様な柔軟な社会となっているが、生きる焦点や目標も定めてくれない時代でもある。</p> <p>個々の悩みは深い、悩むのにも力の要するところもあり、ともすれば通常は、気づかれないほど軽めに見えるところもある。</p> <p>本講義では、パーソナリティ理論の中でも、人間を総体として捉えている精神分析学を中心に各理論を紹介し、人格の発達を概観し、必要に応じて事例を交え人間の心に対する理解を深め、悩める人への援助についても触れながら、受講者自身が今まで以上に自分について、また、人間についての考える一助としたい。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1) 精神分析の基礎理論 (フロイト) cf. エグの分析心理学 局所論・構造論・経済論・適応論・発達論など</p> <p>2) 乳幼児精神分析 (アナーフロイト・マリー・クライン、D. W. ウィニコット) プレ・ディパル</p> <p>3) ライフサイクルから見た発達について (E. H. エリクソン) 自我同一性、グランドプラン、ライフサイクル</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験(論述)の成績を最終的な評価とする。その他レポート有。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>随時、講義の中で紹介する。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>特に指定はしない。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|-----|-------|
| 社会福祉施設処遇論 | | 通期 | 4単位 | 松端 克文 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講は社会福祉施設での援助論(支援論、あるいはサービス論)である。今日わが国の社会福祉従事者は100万人を超えているが、そのほとんどが福祉施設の従事者である。本学の卒業生の就職先も大半が社会福祉施設である。しかし、社会福祉施設での援助論、あるいはサービス論として体系化された理論や方法はほとんどない。また、社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の理論や方法は学んでも、それを活用できる「現場」は、施設をソーシャルワークの実践と分けて捉えてしまうとすれば、非常に限定されてしまう。そこで本講では、社会福祉施設をソーシャルワークを統合的に実践する場として積極的に位置づけることができるよう試みたい。そのためにはたとえば、個別援助技術を「相談援助業務」や「グループワーク」として狭く解するのではなく、対人援助の基本的な視点なり方法として捉え、施設利用者の支援に役立てることができるよう捉え直すことが必要である。あるいは「コミュニティワーク」を社協での実践の方法論とするだけではなく、施設利用者の地域生活支援のための方法論として捉え直すことも必要となる。こうした観点から施設援助論の構築に努めたい。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉改革の動向と社会福祉施設 2. 社会福祉施設の歴史 3. 社会福祉施設の制度体系 4. 社会福祉施設サービス・運営の現状把握 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 社会福祉施設のサービス評価 6. 社会福祉施設におけるソーシャルワーク実践一個別援助技術の観点から一 7. 社会福祉施設における地域生活支援一コミュニティワークの観点から一 8. 社会福祉施設における苦情解決の仕組み、オンブズマンの活動 | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、レポート、学年末試験による</p> | <p>[参考文献]</p> <p>授業時に紹介する</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>教科書使用しない 適宜プリント配布</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|---|------|---------|
| 生活環境論 | | 前 期 | 2 単位 | 北 野 誠 一 |
| [講義概要・学習目標] 2000年頃から始まった「交通バリアフリー法」やアメリカのADA法等をふまえて、狭義及び広義の生活環境、特に「福祉のまちづくり」に焦点をおいて考察する。この科目は参加、実践型の科目であり、班活動による大学内外のバリアフリーの調査や発表等をおこなう。 | | [講義計画] 前半 講義及び班活動による情報収集と発表及び障害当事者によるコメント等 班活動 後半 大学内外バリアフリーの調査準備、調査活動及び発表等 | | |
| [成績評価の方法] 班活動による貢献度及びレポート等 | | [参考文献] | | |
| [教科書] 荒木・中野・定藤編著 講座 障害と暮らしのこころ 第2巻 ④ 社会参加と障がい者の平等 (有斐閣 1994) | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|------------|--|--------------|------------------|
| 介護概論 | 0 1 0 2 | 後 期 後 期 | 2 単位 2 単位 | 川井 太加子 佐瀬 美恵子 |
| [講義概要・学習目標] 1 介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。 2 具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解させる。 3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。 4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。 | | [講義計画] 1 介護の目標、機能及び範囲 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲 2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割 3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割 4) 健康維持のメカニズム 5) 終末期の介護 6) 介護過程の展開 2 介護技法 (安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等) の基本 1) 住生活環境の安全管理 (感染防止) 2) 食事 3) 排泄 4) 衣服の着脱 5) 入浴・身体清潔と感染防止 6) 移動空間の確保 7) 健康習慣の獲得 8) 体力の維持 (運動と機能維持) 9) 自己達成と社会生活の維持 (レクリエーションと学習等) 10) 療養時の対応 11) 緊急・事故等の対応 12) 介護家族への生活維持援助 13) 福祉用具の活用 3 介護関係維持のための技法 1) 健康や生活の観察技法 2) コミュニケーションの技法 3) 記録と情報の共有化の技法 4) 介護専門職 (介護福祉士) と医師・看護婦・保健婦等医療専門職との連携のあり方 5) 介護専門職とその他の福祉専門職 (社会福祉士) との連携のあり方 4 介護活動の場に特有な問題と技法 1) 家庭 2) 施設 | | |
| [成績評価の方法] レポートに出席状況を加味して評価する。 | | | | |
| [教科書] 『介護概論』『新・社会福祉学習双書』編集委員会／編 全国社会福祉協議会 中央福祉学院 | | [参考文献] その都度紹介する。 | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|--------------|------------|--------------------|
| 介 護 演 習 (旧介護実習) | 01 02 | 9月集中 9月集中 | 2単位 2単位 | 川 井 太加子 佐 瀬 美恵子 |
| [講義概要・学習目標] 介護演習は介護概論を受けて実践的に介護の理論と技術を展開することを目的とする。加齢や心身の障害によって日常生活が自力では行えない人を、どうすれば残存機能が最大限にいかせるか、人の尊厳や個性を尊重しながら援助できるか、予防的視点を持って日常生活が自立できるか、更に生涯にわたって成長・発達し続ける存在としての人を介護ではどう援助できるかを、具体的事例を用いて学び合う。 | [講義計画] ひとり暮らし高齢者、痴呆性高齢者、進行性の障害児・者等の事例を用いて、小グループに分かれて具体的な援助方法を学ぶ。 1. コミュニケーションの方法 2. アセスメントの方法と記録方法 3. 社会資源の活用と調整の方法 4. 介護技術の展開 5. モニタリングと評価方法 6. まとめ | | | |
| [成績評価の方法] レポートと平常点（出席率及び演習への参加状況）を総合して評価する。 | [参考文献] その都度紹介する。 | | | |
| [教科書] その都度紹介する。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| 臨床心理学 | | 通 期 | 4 単位 | 川 口 茂 雄 |
| [講義概要・学習目標] 今日、「もの」が豊かになるにつれて、「こころ」の重要性がだいに認識されるようになってきている。このような時代にあって、臨床心理学は、医療、福祉、教育、司法、産業、地域社会などの各臨床現場で、「こころ」の問題や葛藤で悩み苦しんでいる人々を、心理学的な知識や技法を用いて援助してゆく、極めて実践的な学問である。 本講義では、先ず臨床心理学発展の歴史を振り返りながら、その独自性、特色を明らかにした上、基礎的な人格理論や対象となる各発達段階での課題と病理を学習させる。次に、心理臨床の実践現場での人格理解の方法（面接、各種心理検査）及び心理療法の幾つかの技法について、時間を割いて習得させる。講義の中では、事例検討を行ったり、ビデオによる実際場面の試聴をとおして、「実践の学」である臨床心理学の理解を一層深めさせる。 | [講義計画] 1 臨床心理学とは何か 2 臨床心理学の歴史 3 精神力動理論の基礎 4 パーソナリティの発達と病理 (1) 各発達段階の課題 (2) 適応障害と精神病理 5 臨床心理学的アセスメント (1) 面接と行動観察 (2) 心理検査法 6 心理療法 (1) 来談者中心療法 (2) 行動療法 7 臨床心理学の課題 | | | |
| [成績評価の方法] レポート提出及び期末試験の成績等によって総合的に評価する。 | [参考文献] 馬場健一編「臨床心理学」弘文社 野島一彦編「臨床心理学への招待」ミネルヴァ書房 岡堂哲雄編「新版心理臨床入門」新曜社 | | | |
| [教科書] 特に指定しない。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|-------|
| 精神保健学 | | 通 期 | 4 単位 | 郭 麗月 |
| [講義概要・学習目標] 1 精神保健についての基本知識について理解させる。 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。 4 地域精神保健と地域保健について理解させる。 5 諸外国における精神保健の概要について理解させる。 6 関連法規および施設について理解させる。 | [講義計画] 1 精神保健についての基本知識 1) 精神保健の概要 2) 精神保健の意義と課題 2 ライフサイクルにおける精神保健 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健 2) 学童期における精神保健 3) 思春期における精神保健 4) 青年期における精神保健 5) 成人期における精神保健 6) 老年期における精神保健 3 精神保健における個別課題への取り 組み 1) 精神障害者対策 2) 老人性痴呆疾患対策 3) アルコール関連問題対策 4) 薬物乱用防止対策 5) 思春期精神保健対策 6) 地域精神保健対策 7) ターミナルケアと精神保健 4 精神保健活動の実際 1) 家庭における精神保健 2) 学校における精神保健 3) 職場における精神保健 4) 地域における精神保健 5 地域精神保健と地域保健 1) 地域精神保健施策の概要 2) 地域保健施策の概要 3) 関係法規 4) 関連施策 6 諸外国における精神保健 | | | |
| [成績評価の方法] レポート、定期試験 | [参考文献] 適時紹介する。 | | | |
| [教科書] 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 精神保健福祉士養成セミナー 第2巻 『精神保健学』（へるす出版） | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|---------|
| カウンセリング | | 通 期 | 4 単位 | 川 口 茂 雄 |
| [講義概要・学習目標] 現代は不安の時代と言われている。人びとは、厳しい社会状況の中で、孤独と強いストレスにさらされ、家庭、学校、職場などでの人間関係で悩み苦しんでいる。このような不適応状況にある人びと（クライアント）が、援助者（カウンセラー）とのコミュニケーションによって、人間関係の改善や自己実現を図ってゆく心理学的面接をカウンセリングと呼んでいる。 カウンセリングでは、カウンセラーはどのような態度や技法でもってクライアントとかかるとか、カウンセリングはどのように展開してゆくのか、カウンセリング過程で生ずる諸問題をどのように解決すべきか、各分野でのカウンセリングの実際はどのようなものなのか。 本講義では、先ずカウンセリングの基礎的理論、技法、進め方などを学習させ、後期ではロールプレイによる体験学習を実施しながら、カウンセリングの実際を具体的に理解させる。 | [講義計画] 1 カウンセリングとは何か 2 カウンセリングの理論 3 カウンセラーの基本的態度 4 カウンセリングの技法 5 カウンセリングの展開 6 カウンセリングの終結 7 カウンセリング過程で生じる諸問題 8 結婚カウンセリング 9 学校カウンセリング 10 カウンセラーの専門性と倫理 11 ロールプレイによる体験学習 | | | |
| [成績評価の方法] レポート提出及び実技・期末試験の成績等によって総合的に評価する。 | [参考文献] 河合隼雄著「カウンセリングの実際問題」誠信書房 氏原寛他著「カウンセリング初歩」ミネルヴァ書房 澤田瑞也他編「キーワードで学ぶカウンセリング」世界思想社 | | | |
| [教科書] 特に指定しない。 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|------|---------|
| レクリエーションワーク | | 通 期 | 4 単位 | 石 田 易 司 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>組織キャンプを素材に、障害者、高齢者、児童などの福祉対象者へのレクリエーション指導の理論と技術を身につける。 施設などの福祉現場に出た時に役に立つ人材になれるよう、教室内での受け身の授業で終わらず、積極的に野外に出て、安全なプログラム運営技術、グループワークの体験ができるよう、実習も行う。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>①福祉におけるレクリエーションの現状と課題 ②組織キャンプの理解 ③キャンプの対象とプログラム ④個々のプログラムの運営と指導 ⑤キャンプ実習 ⑥救急法実習 ⑦レクリエーションとセラピー ⑧記録と評価</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>出席点と期末のレポート</p> | <p>[参考文献]</p> <p>「CAMPING FOR ALL」(エルピス社) 「いきいき高齢者キャンプ」(朱鷺書房) 「高齢者レクリエーション指導の手引き」(朝日新聞厚生文化事業団) 「福祉レクリエーション総論」-(中央法規)</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>「痴呆性老人とキャンプ」(朱鷺書房) 「新しい高齢者レクリエーション」(大阪YMCA)</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|---------|
| 福祉事情研究 | | 通 期 | 4 単位 | 中 村 永 司 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現代社会における社会福祉のトピックスを扱う</p> <p>① 最近の社会福祉の理念の動向 ② 基礎構造改革 ③ ドメスティックバイオレンスの実態 イ：児童虐待 ロ：婦人虐待 ハ：高齢者虐待 ④ ドメスティックバイオレンスの対応策 ⑤ 社会福祉サービスの最近の課題 ⑥ 介護保険制度・成年後見制度の特質と課題</p> | <p>[講義計画]</p> <p>講義の前半で最近の社会福祉の理念や構造の変容や動向をさぐり、後半においては現代社会の福祉的課題を追求して具体的な対応策やサービスのあり方を考える。</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験</p> | <p>[参考文献]</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|--|------|---------|
| 社会福祉特講(現代社会福祉事情研究) | | 通 期 | 4 単位 | 松 端 克 文 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>2000年4月に介護保険法が施行され、5月には社会福祉事業法(改正後、社会福祉法)のほか、身体障害者福祉法や知的障害者福祉法なども改正され、6月より施行されている(障害者に関する措置制度から支援費支給方式への変更などについては2003年4月施行)。利用者の選択権や自己決定権を尊重した利用者主体の理念をベースにした措置から契約利用制度への変革、選別主義から普遍主義への移行、地域生活の尊重などを中心にここ数年議論されてきた「社会福祉基礎構造改革」がある程度具体化したことになる。本来ならこうした改革の内容については、利用者の生活実態をふまえて批判的に検証する必要がある。しかし、現状ではそうしたことが十分におこなわれてきたとはいえない。この間の社会福祉士の国家試験においても、「今日の社会福祉は、選別主義から普遍主義の方向を目指している」○か×か、というような設問が散見できる。解答は○となるが、それは厚生省の示す改革の理念レベルのはなしであって、住民の生活実態からすれば、むしろ×であるといえるのかもしれない。本講の目的は社会福祉士試験対策として、社会福祉に関する基礎的な知識を習得することにある。しかしそれだけにとどまらず、政策・制度の批判的検証や、福祉専門職としての実践の方向などを少しでも提示できるよう心がけたい。※昨年度の特講の受講生もサブタイトルが異なるため受講可能。</p> | | <p>[講義計画]</p> <p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉原論(歴史、思想、理論、法・制度、社会福祉改革の内容の把握) 2. 障害者福祉論 3. 老人福祉論(介護保険、ケアマネジメント含む) <p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 地域福祉論 5. 社会福祉援助技術(総論、各論Ⅰ、各論Ⅱ) 6. 児童福祉論 | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、小テスト、後期テストなどで総合評価する。</p> | | <p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○厚生統計協会編『国民の福祉の動向』(厚生統計協会) ○厚生省編『厚生白書』(ぎょうせい) ○社会・介護福祉士受験ワークブック編集委員会編『社会福祉士受験ワークブック』上・下(中央法規) ○『必携社会福祉士』<専門科目編、関連5科目編>(筒井書房) ○『社会福祉士国家試験解説集』(中央法規) ○『社会福祉士模擬問題集』(中央法規) ○『社会福祉士国家試験予想問題集』(誠信書房) | | |
| <p>[教科書]</p> <p>○社会福祉養成講座編集委員会編集『改訂 社会福祉養成講座 全15巻』中央法規(できるだけ購入すること) ○その他随時プリント資料配布</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|-----|---|------|---------|
| 社会福祉特講(保健・医療・福祉の連携) | | 通 期 | 4 単位 | 中 村 永 司 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会福祉の最近の動向を明らかにし、保健・医療・福祉の連携の要件を考え在宅福祉サービスの具体策について考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保健・医療・福祉の連携の必要性 ② 保健・医療・福祉とは何か ③ 社会医学の観点 ④ 在宅医療の観点 ⑤ 在宅福祉の観点 ⑥ 在宅介護支援センター・在宅訪問看護ステーションの機能とジョイントシステム ⑦ 保健医療ソーシャルワークの必要性 | | <p>[講義計画]</p> <p>講義前半については保健医療の機能と内容を明らかにし、在宅医療の本質を究明する。 後半では福祉と保健医療のドッキングの有効性をさぐり、医療ソーシャルワークの機能を考える。</p> | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験</p> | | <p>[参考文献]</p> | | |
| <p>[教科書]</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|--|------|------|-------|
| 心理学 | 01 | 通 期 | 4 単位 | 冷水 啓子 |
| [講義概要・学習目標] | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間の心理学的理解 <ol style="list-style-type: none"> 欲求・動機づけと行動 感情・情動 感覚・知覚・認知 学習・記憶・思考 知能・創造性 人格 適応と適応異常 人間の成長・発達と心理 人間理解のための心理学理論と技法 <ol style="list-style-type: none"> 基礎理論 <ol style="list-style-type: none"> ①精神分析 ②行動分析 ①発達 ②知能 ③性格 心理的援助技法の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 心理療法 (個別面接法・集団面接法) 2) 家族心理療法 3) 行動療法 | | | |
| [成績評価の方法] | | | | |
| [教科書] | | | | |
| <p>学年末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p> <p>福祉土養成講座編集委員会 (編) 『心理学』 (中央法規)</p> | <p>[参考文献]</p> <p>市川伸一 (編) 『心理測定法への招待』 (サイエンス社) 松原達哉 (編) 『最新 心理テスト法入門』 (日本文化科学社) 中島義明 (編) 『メディアに学ぶ心理学』 (有斐閣) 大村彰道 (編) 『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』 (東京大学出版会) 下山晴彦 (編) 『教育心理学Ⅱ―発達と臨床援助の心理学―』 (東京大学出版会)</p> | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|------|-------|
| 法学 | 01 | 通 期 | 4 単位 | 前田 徹生 |
| [講義概要・学習目標] | <p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 社会生活と法 憲法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本原理 2) 基本的人権 3) 地方自治 民法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 総則 (成年後見を含む) 2) 物権 3) 契約 4) 不法行為 5) 親族 6) 相続 行政法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 行政行為及び行政手続 2) 行政不服審査 3) 行政訴訟 4) 情報公開 5) 地方行政組織 | | | |
| [成績評価の方法] | | | | |
| [教科書] | | | | |
| <p>概要</p> <p>市民の社会生活に関連の深い法分野について、基礎的な知識を講述する。 私語・遅刻は厳禁。 なお、下記の教科書は毎授業時間に携帯すべき本という意味である。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。 <p>前期、後期の二度の試験を総合して評価する。</p> <p>伊藤正己 『法学』 [第二版] 有信堂</p> | <p>[参考文献]</p> <p>伊藤正己・加藤一郎 編 『現代法入門』 [第3版補訂版] 有斐閣 中谷実 編 『ハイブリッド憲法』 頸草書房 芦部信喜 『憲法』 岩波書店 谷口知平・甲斐道太郎 編 『現代民法入門』 [新版] 法律文化社</p> | | | |

「コンピュータ利用Ⅰ」クラス一覧

| クラス | 担当者 | ページ | クラス | 担当者 | ページ | クラス | 担当者 | ページ |
|-----|--------|-----|-----|-------|-----|-----|-------|-----|
| 01 | 島田 文彦 | 287 | 12 | 岩田 賢造 | 289 | 23 | 永田 淳次 | 290 |
| 02 | 島田 文彦 | 287 | 13 | 岩田 賢造 | 289 | 24 | 水口 薫 | 287 |
| 03 | 水口 薫 | 287 | 14 | 島田 文彦 | 287 | 25 | 水口 薫 | 291 |
| 04 | 毛利 進太郎 | 288 | 15 | 島田 文彦 | 287 | 26 | 水口 薫 | 287 |
| 05 | 毛利 進太郎 | 288 | 16 | 田村 昶三 | 290 | 27 | 水口 薫 | 291 |
| 06 | 巖 圭介 | 288 | 17 | 田村 昶三 | 290 | 28 | 水口 薫 | 287 |
| 07 | 巖 圭介 | 288 | 18 | 田村 昶三 | 290 | 29 | 水口 薫 | 291 |
| 08 | 岩田 賢造 | 289 | 19 | 田村 昶三 | 290 | 30 | 水口 薫 | 287 |
| 09 | 岩田 賢造 | 289 | 20 | 永田 淳次 | 290 | 31 | 水口 薫 | 291 |
| 10 | 岩田 賢造 | 289 | 21 | 永田 淳次 | 290 | 32 | 藤間 真 | 291 |
| 11 | 岩田 賢造 | 289 | 22 | 永田 淳次 | 290 | | | |

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は35名以内に制限します。従って応募者が、定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. どのクラスも今まででコンピュータに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュータリテラシーの伝授を行うことを目的としています。
4. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
5. 学則上、この科目は「共通自由科目（共通系）（2単位）」「社会福祉学科自由科目（2単位）」に位置づけられています。
6. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に予備登録が必要です。

対象者：98～00SW生

定員：35名

日時：98～00SW生 4月2日（月）
9:10～15:00（11:30～12:30 昼休憩）

場所：学務課窓口

クラス発表：4月12日（木） 聖アンデレ館下掲示板

申込方法：①「コンピュータ利用Ⅰ予備登録票」に必要事項を記入して提出してください。

② 希望するクラスを3つ以内記入してください。

ただし、同一クラスを記入することはできません。

③ 記入された時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意してください。

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|--|------|-----|---------|
| コンピュータ利用 I | 0 1 | 9月集中 | 2単位 | 島 田 文 彦 |
| | 0 2 | 9月集中 | 2単位 | |
| | 1 4 | 前 期 | 2単位 | |
| | 1 5 | 後 期 | 2単位 | |
| 【講義概要・学習目標】 | 【講義計画】 | | | |
| <p>近年、コンピュータは「読み（＝情報の取得）」「書き（＝情報の作成）」「そろばん（＝情報の加工）」のための道具としてだけでなく、コミュニケーションの手段としての働きにも注目が集められている。これにより、コンピュータは情報にかかわる際の手段としてより大きな役割を持つようになっている。</p> <p>また、現在ではコンピュータの機能は多様化・高度化し、得られる情報も大型化・複雑化してきた。しかし、それに伴って、機能や情報に振り回される危険性も出てきたため、目的に合わせて機能を使いこなす必要が出てきた。</p> <p>本講義では、情報の取得、加工、発信を中心とした主なアプリケーション群の使い方を学ぶことと、その知識を用いてコンピュータ、アプリケーションの基本構造を理解し、本講義では触れないほかのアプリケーションについてもその道具としての使い方を直感的に理解し、十分その機能を使いこなせるような力をつけることを目的とする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● コンピュータの概要と操作方法 : 共通した操作方法の理解 ● 文書の作成 : ワードプロを用いた文書の作成と修飾 ● 情報の加工 : 表計算ソフトを用いた情報の加工 ● コミュニケーション : 電子メールソフトによる情報の伝達 ● 情報の取得と伝達 : WWW の効率的な利用 | | | |
| 【成績評価の方法】 | 【参考文献】 | | | |
| 講義内の課題、レポート、出席状況による評価 | 桃山学院大学計算機センター（編） 『桃山学院大学計算機センターユーザーズガイド』 | | | |
| 【教科書】 | | | | |
| なし | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|-----|-------|
| コンピュータ利用 I | 0 3 | 9月集中 | 2単位 | 水 口 薫 |
| | 2 4 | 前 期 | 2単位 | |
| | 2 6 | 前 期 | 2単位 | |
| | 2 8 | 前 期 | 2単位 | |
| | 3 0 | 前 期 | 2単位 | |
| 【講義概要・学習目標】 | 【講義計画】 | | | |
| <p>近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会への発達には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。</p> <p>本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネット） 6. ネットワークと情報交換（e-mail、データ転送） 7. コンピュータの可能性について | | | |
| 【成績評価の方法】 | 【参考文献】 | | | |
| 講義時の課題、レポート、出席により総合評価。 | | | | |
| 【教科書】 | | | | |
| 「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者配布 | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|---|------|-----|--------|
| コンピュータ利用Ⅰ | 04 | 7月集中 | 2単位 | 毛利 進太郎 |
| | 05 | 9月集中 | 2単位 | |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <p>近年、コンピュータの発達により、単に計算を行うだけでなく様々な場面で活用されるようになってきている。またインターネットの発達により、様々な情報が電子的に流通し、また発信することが可能となってきている。そこではコンピュータの専門的知識だけではなく、道具として扱うことができる知識が必要となる。</p> <p>そこで本講義ではコンピュータの基本的な概念を学習し、加えてそれらを身近な道具として用い、またインターネット上の様々な情報を活用するための知識を演習を通して習得することを目的とする。</p> | <p>以下の事柄について講義を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基礎的概念 2. Windows98の操作 3. ワードプロによる文書の作成 4. インターネット（電子メール、WWW）の活用 5. 表計算の基本的操作 <p>各項目について数回の演習を主体とした講義を行う</p> | | | |
| [成績評価の方法] | [参考文献] | | | |
| <p>随時課題を出し、出席状況と合わせて評価を行う。</p> | <p>桃山学院大学計算機センター 「桃山学院大学計算機センター ユーザーズ・ガイド」</p> | | | |
| [教科書] | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|------|-----|-------|
| コンピュータ利用Ⅰ | 06 | 前期 | 2単位 | 巖 圭 介 |
| | 07 | 後期 | 2単位 | |
| [講義概要・学習目標] | [講義計画] | | | |
| <p>コンピュータを使わずに仕事をすることがありえない時代になってきた。少し前ならコンピュータ使用の経験は特技としてアピールできたが、今では使えて当たり前。ワードプロを使いこなせないのは字が書けないのと同じ、電子メールを使えないのは電話の使い方を知らないのと同じである。</p> <p>一方で、年々ますます高性能になるコンピュータは、様々なことを可能にする魔法の箱でもある。インターネットも無限の可能性を秘めて日々成長している。このようなコンピュータの世界を知らずにいることは、人生の損失以外の何ものでもない。</p> <p>この授業では、<u>コンピュータに触ったことのない人</u>を対象に、コンピュータの基礎を学んでもらう。ワードプロ、表計算などビジネスで必要とされる基礎技術に加え、プレゼンテーション、ホームページの作成など、コンピュータの楽しさも味わってもらえる授業にしたい。</p> <p>コンピュータは道具である以上、頭で理解するだけではなく実際に使って身体で覚えてもらわねばならない。毎回出席することはもちろんだが、自由時間に自習する必要もある。</p> | <p>下記の項目について実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータのさわり方 ・キーボード入力 ・電子メール（AL-Mail） ・インターネット（Internet Explorer） ・ワードプロセッサ（MS Word） ・表計算（MS Excel） ・プレゼンテーション（Power Point） ・ホームページ入門 <p>ただし、進度によってはプレゼンテーションやホームページ入門は割愛することがあります。</p> | | | |
| [成績評価の方法] | [注意] | | | |
| <p>出席状況と期末の実技テストによる。欠席4回で除籍する。</p> | <p>この授業は基本的に完全初心者を対象としています。経験者が受講しても退屈だけですし、経験者が入ることで、本来受講すべき初心者が受講できない事態も生じます。ある程度心得のある人は、なるべく他の授業を受けるようにして下さい。</p> | | | |
| [教科書] | | | | |
| <p>桃山学院大学計算機センター編「ユーザーズガイド」 （最初の授業で支給します）</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|-------------------|-------------------------|---------|
| コンピュータ利用 I | 08 10 12 | 前 期 前 期 前 期 | 2 単 位 2 単 位 2 単 位 | 岩 田 賢 造 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>インターネットの普及に伴い、エレクトロニック・コマース（EC）など新しい情報技術（IT）を利用した、新しい事業やベンチャー企業が出現しています。日本は、情報化においてアメリカに大きく遅れをとっていますが、日本経済の再生には情報技術（IT）の効果的な利用が必須になります。授業では、コンピューターを利用する上で必要な、基本的な知識・操作方法について学んで頂くと共に、コンピューターをツールとして利用している企業の事例などについて概説します。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1) パーソナル・コンピュータの概要 2) キーボード練習と基本操作 3) 電子メールの基本操作 4) インターネットの基本操作 5) ワードプロソフト（Word）の基本操作 6) 表計算ソフト（Excel）の基本操作 7) データ分析とグラフ表現の方法 8) プレゼンテーションソフト（Power Point）の基本操作 9) その他の情報活用技法と事例紹介</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視します。出席日数60%以上と数回の課題提出による総合評価を行います。予習・復習などは時間外に行なっていただきます。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>桃山学院大学計算機センター編の「ユーザーズガイド」を利用します。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>必要に応じて指示致します。 ・教材は、主にプリントにて配布します。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|---|---|-------------------|-------------------------|---------|
| コンピュータ利用 I | 09 11 13 | 後 期 後 期 後 期 | 2 単 位 2 単 位 2 単 位 | 岩 田 賢 造 |
| <p>[講義概要・学習目標]</p> <p>インターネットの普及に伴い、エレクトロニック・コマース（EC）など新しい情報技術（IT）を利用した、新しい事業やベンチャー企業が出現しています。日本は、情報化においてアメリカに大きく遅れをとっていますが、日本経済の再生には情報技術（IT）の効果的な利用が必須になります。授業では、コンピューターを利用する上で必要な、基本的な知識・操作方法について学んで頂くと共に、コンピューターをツールとして利用している企業の事例などについて概説します。</p> | <p>[講義計画]</p> <p>1) パーソナル・コンピュータの概要 2) キーボード練習と基本操作 3) 電子メールの基本操作 4) インターネットの基本操作 5) ワードプロソフト（Word）の基本操作 6) 表計算ソフト（Excel）の基本操作 7) データ分析とグラフ表現の方法 8) プレゼンテーションソフト（Power Point）の基本操作 9) その他の情報活用技法と事例紹介</p> | | | |
| <p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視します。出席日数60%以上と数回の課題提出による総合評価を行います。予習・復習などは時間外に行なっていただきます。</p> | <p>[参考文献]</p> <p>桃山学院大学計算機センター編の「ユーザーズガイド」を利用します。</p> | | | |
| <p>[教科書]</p> <p>必要に応じて指示致します。 ・教材は、主にプリントにて配布します。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|----------------------|--|--------------------------|---------|
| コンピュータ利用 I | 16 17 18 19 | 前 期 後 期 前 期 後 期 | 2単位 2単位 2単位 2単位 | 田 村 昶 三 |
| 〔講義概要・学習目標〕 <p>パソコンを使ったインターネット（電子メールとWWW）は常識になった。しかし、習熟するには、時間とエネルギーがかかる。それを効率的に勉強する者を対象とするパソコン基礎習得を目的とする。</p> <p>パソコンを道具として使いきるためには、避けて通れない「壁」がある。その壁を越えるための授業です。パソコンの「基礎の基礎」を勉強します。</p> <p>情報処理は大まかに(1)情報収集-(2)情報整理-(3)情報伝達-(4)情報保管蓄積-(5)情報検索の段階に分けられる。この中で(2)-(4)を中心にコミュニケーションの手段としてのパソコンの実習を通して基礎から勉強をする。</p> <p>ビジネスで文書・書類を中心に日本商工会議所パソコン検定試験（ワープロ・表計算）の受験を目標にします。検定合格レベルになるには相当な努力が必要です。</p> <p>サポートしますので積極的に自習をしてください。</p> <p>パソコン基本操作から始まりますが、パソコンの活用を授業の中心にします。教材はビジネスシーンで使われているものをとりあげます。その意味を考え、そのknowを勉強しましょう。</p> | | 〔講義計画〕 <ol style="list-style-type: none"> 1. Windowsの起動と終了。C&Pとは。 2. パソコンの基本操作（キータッチとマウス） 3. ワードプロソフト（文字入力、文書作成編集、美しい文書表現） 4. 表計算（データとグラフ）（データ入力、表の作り方、グラフ作成） 5. POWER POINTの使い方 6. インターネットの利用（WWW、電子メール、メールマガジン、） 7. 情報保管蓄積、情報検索、データベース。 8. ファイリングとキャビネット 9. 情報技術（IT）の活用するには 10. ビジネス文書、ワークフローの活用 <p>ワードプロソフトを使いきる。入力のスピードをペンで書くより速く入力できるようになる。</p> <p>表計算（EXCEL）の基本的な使い方がわかり基礎的な使い方はこなせる。</p> <p>電子メールをつかってコミュニケーションができる。</p> <p>インターネットのWWWで情報の収集と整理ができる。</p> | | |
| 〔成績評価の方法〕 <p>出席が3分の2以上で、入力テスト（10分間）、電子メール送受信、毎週の理解度テスト提出、学期末試験により総合的に評価する。</p> | | 〔参考文献〕 <p>桃山学院大学計算センター（編）『ユーザーズガイド』</p> | | |
| 〔教科書〕 <p>教材は、毎週プリントで配布する。</p> | | | | |

| 科 目 名 | クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|--|----------------------|--|--------------------------|---------|
| コンピュータ利用 I | 20 21 22 23 | 前 期 後 期 前 期 後 期 | 2単位 2単位 2単位 2単位 | 永 田 淳 次 |
| 〔講義概要・学習目標〕 <p>コンピュータはその名前が示すとおり、計算が得意な機械として生まれてきた。このデータを高速で処理するという特長を活かし様々な情報を処理する道具として発展してきている。現在では、電子メールに代表されるようにコミュニケーションのための道具としても利用されている。</p> <p>本講義では、初心者がコンピュータやコンピュータネットワークの概要を理解するとともにその周辺の知識を深めることを目標としている。</p> <p>また、コンピュータの基本的な操作を習熟するために、実習を中心に講義を進める。</p> | | 〔講義計画〕 <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの概要と基本的な操作 2. メールによるコミュニケーション 3. 日本語文書の作成 4. インターネットの基礎知識 5. プレゼンテーション | | |
| 〔成績評価の方法〕 <p>提出された課題の総合評価。出席は3分の2以上。</p> | | 〔参考文献〕 <p>桃山学院大学計算機センター編『ユーザーズガイド』</p> | | |
| 〔教科書〕 <p>必要に応じてプリントを配布</p> | | | | |